

福井工業高等専門学校

研 究 紀 要

人文・社会科学

第 54 号

RESEARCH REPORTS OF NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN),
FUKUI COLLEGE
THE HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCE NO.54

JANUARY 2021

目 次

「んですよ」の指導に関する一考察 — 日本語母語話者と日本語学習者の使用差に着目して —	<u>市 村 葉 子</u>	1
英語の遠隔授業について	<u>森 貞</u>	13
『竹取物語』における帝 ——物語文学史における帝の始発——	<u>伊 勢 光</u>	48

* 下線は投稿者

CONTENTS

A Study on Teaching ndesuyone : Differences in Usage Between Native Japanese Speakers and Japanese Learners	<u>Yoko ICHIMURA</u>	1
On Synchronous Online Teaching of English as a Foreign Language	<u>Sadashi MORI</u>	13
Mikado in the Taketori Monogatari ——The beginning of the emperor in the history of narrative literature	<u>Hikaru ISE</u>	48

* The name of an underline means a contributor.

「んですよ」の指導に関する一考察

— 日本語母語話者と日本語学習者の使用差に着目して —

市 村 葉 子^{*1}

A Study on Teaching *ndesuyone* : Differences in Usage Between Native Japanese Speakers and Japanese Learners

Yoko ICHIMURA

The aim of this study is to show the relationship between the intention of utterance and tone pertaining to *ndesuyone* in order to utilize the findings for Japanese language education. We conducted a preliminary study prior to the main study. In the preliminary study, we conducted a questionnaire survey of native Japanese speakers on the choice between sentences ending with *noda* and those not ending with *noda* in the presented dialogues. In the main study, native Japanese speakers and Japanese learners were asked to read aloud dialogues containing three utterance intentions of *ndesuyone* (**confirming**, **seeking agreement**, and **presenting information**). We found that unlike native speakers, learners tended to use a flat tone when **confirming**. Furthermore, learners tended to exhibit a lack of vowel lengthening in *ne* when **presenting information**. Based on the results, this study proposes that the above form should be presented to learners as one form. Moreover, its utterance intentions and appropriate tones should also be taught.

Keywords : *ndesuyone*, *noda*, intonation and usage, teaching Japanese

1. はじめに

本研究の目的は、日本語教育に寄与すべく、「んですよ」の発話意図と音調との関係を示すことである。本研究では日本語母語話者（以下、母語話者）及び日本語学習者（以下、学習者）に対する2つの実験結果を基に、発話意図と音調との関係を体系化し、市村（2015）が指摘するように当該形式を「一つの表現形式」として指導することを提案する。

Maynard (1993)、メイナード (2005) によると、ムード形式のノダ^{注1}は日常会話の文末において日本語母語話者に対話で25.83%、自然会話で25.48%使用されており、使用頻度の高い形式とされている。そのノダが会話でどのような実現形で使用されるかを調査した市村・堀江（2013）では、ノダは主に終助詞などとの複合形式で使用されており、その中で「んですよ」の使用は男女とも第4位だったという。

一方で、使用頻度の高いノダはその多様な性質により、日

本語学習者に指導が難しい項目とされてきた。「んですよ」「んですけど」といったノダの複合形式（以下、ノダ形式）の適切な使用は、超級話者の特徴だという指摘もある（山内2004）。例えば本研究が注目する「んですよ」についていえば、その習得が困難な理由の一つは、「確認・同意要求」場面と「情報提示」場面という一見対極的な場面で使用される点である。次の例を見られたい。

(1)（「よく「わ」を使う」という男性Bに）

A：それは女性が使う「わ」とはちょっと違うんですよ。

B：そうですね、違う気がします。

(2)（宣伝用のポスターの仕上がりを見ている同僚に）

A：思った通りに仕上がりましたか？

B：んー……。なんかイメージと違うんですよ。

例えば (1) は、話し手であるAが、聞き手であるBの「わ」

^{*}一般科目教室 ¹ ichimura@fukui-nct.ac.jp

と女性が使う「わ」とは違うと考え、その妥当性を確認している。この命題内容は言わば聞き手優位の情報である。しかし(2)の命題は聞き手の問いかけについて、話し手が自分の意見を披露する、話し手優位の情報である。このように「んですよ」が多様な発話意図を有することが、習得を困難にしている理由であると考えられる。

しかし、市村(2015)では、当該形式が日本語能力試験N4(初級修了レベル)の聴解問題で散見されることから、習熟度の低い段階から当該形式の理解が求められていることを指摘している。このように使用頻度が高く、しかし習得が難しい形式を学習者にいかに効率的に指導すべきか、その疑問を出発点に本研究では2つの調査を行った。そして学習者に対する「んですよ」の指導に生かすため、その結果をもとに、当該形式の発話意図と音調との関係を記述する。

本研究の構成は以下のとおりである。2節で先行研究を概観し、残された課題を示す。3、4節で実施した調査概要と結果を示す。5節で考察を述べ、6節で本研究のまとめと今後の課題を述べる。

2. 先行研究

2・1 「んですよ」に関する研究

当該形式の先行研究として、蓮沼(1992)、野田(2002)、市村(2015)を取り上げる。蓮沼(1992:65-66)によると、「よね」には「聞き手に欠けた情報を話し手が伝達する用法」があり、この場合「ね」の使用が任意的であること、そして、この「ね」を使用することにより「発話権の保持」や相手の発言に呼応して一体感を示すといった協応的態度を示すことができる。さらに、この用法の形式的特徴として「よね」が(3)のように「ノダ」といった説明のムードを表す形式と共に使用されると記述している。

(3) 法子：彼がね、仕事で南米に行くことになって、彼としては一緒に来てくれるだろうと思っていたのよね。でも、桐子、その頃、仕事が面白くて仕方なかったの。それで、一緒に行くのいやだって行ったの。
(蓮沼、1992:65 (6) 点線筆者)

一方、野田(2002)では、ノダに「確認要求」の「よね」

が後接した例を挙げて、次のように説明している。

(4) 「結婚、しているんですよ？」

突然彼女が僕にそう聞いた。どくんと心臓が嫌な音を打つ。
「指輪」

そう彼女は呟く。僕は黙ったまま、脂肪に埋もれた銀色の指輪に目を落とす。

「右手にしているから、もしかしたら違うのかなって思ってたんです」
(野田、2002:287 (85))

野田(2002:288)によれば、(4)の場合、聞き手が指輪をしているという状況の〈事情〉を「結婚している」と把握していることが「のだ」で、その把握が当然のことであるという見込みが「よ」で、その見込みと聞き手の知識の一致を問うことが「ね」で表されているという。

蓮沼(1992)、野田(2002)はいずれも複数のムード形式の意味の加算として当該形式を説明している。ただし、当該形式は文末で使用されるため、音調が発話意図の違いの手がかりになると考えられるが、両者とも音調については言及がない。

市村(2015)は、これら2つの知見を援用し、「んだよね」の発話意図と音調の関係を記述している。具体的には、発話意図を「確認」「同意求め」「同意」「情報提示(発話権保持)」「情報提示(応答)」の5つに類型化し、母語話者15名を対象とした読み上げ実験の結果から、5つの発話意図と音調との関係について、以下の3点を指摘している。

- ・「んだよね」の「ね」の音調はアクセント上昇調、平調、上昇下降調が選好される
 - ・「確認」「同意求め」について、「聞き手に対して積極的に同意を求めたい場合には上昇下降が、聞き手の同意が当然得られると考える場合にはアクセント上昇及び平坦が使用される
 - ・「情報提示」場面ではアクセント上昇、平坦の長呼が使用される傾向にあったが、それは「当該情報を話し手自身で処理中である」という心的態度を明示するためである
- なお、こうした「ね」長呼の機能ゆえに、相手に対する非難や非選好的応答、回想場面で使用されるのであろうと結論づけている。

市村(2015)の研究は「んだよね」の発話意図と音調との

関係を母語話者の読み上げ実験から記述している点で興味深い。しかし、被験者が少数であること、さらに、学習者対象の実験を行っていないという点において、検討すべき点が残されている。そこで、本研究では市村(2015)が対象外としている「んですよ」に着目し、「明日、テストですよ」や「彼も来ますよね」のような非ノダ文^{注2}に言い換え不能なノダ文を対象に、母語話者と学習者の読み上げ実験を実施し、「んですよ」の発話意図と音調との関係を記述する。

2・2 「ね」の音調に関する研究

本研究では「ね」の音の高さの変動を「音調」と記述する。「音調」とは郡(2003)によれば、「アクセントによるものかどうかにかかわらず、そして言語学的な意味があるものもないものも含めて、声の高さを一言で言い表すもの」(p.110)である。そして、郡(2003)は文末音調を疑問上昇調、アクセント上昇調、平調、上昇下降調、急下降調に類型化している。それぞれの定義は郡(2003)に準ずる。

疑問上昇調：疑問文の文末に典型的に現れるような直線的な上昇であり、音を長くのばせば、おおむねその分だけ高くなる。

アクセント上昇調：強めを伴うことも多く、上昇の仕方はアクセントに伴う上昇と同じであり、音を伸ばしてもそのまま同じ高さを保つ。

平調：平叙文の文末拍に典型的に現れ、顕著な高低変化がない。

上昇下降調：アクセント上昇の直後に顕著な下降が続く。

急下降調：末尾音節内で急な下降をするもの。

「ね」の音調については膨大な研究の蓄積がある。本研究では特に轟木(2008)、森山(2001)の研究を取り上げる。

轟木(2008)は、音調の種類を郡(2003)に準じている。さらに、上昇調は句末、文末の形式により意味機能が同じ場合と異なる場合があるが、「ね」の場合は異なるとしている。具体的には、アクセント上昇調は「(聞き手が同意しているという前提で)話し手の判断を提示あるいは行動を宣言する」(例(5)、(6))が、疑問上昇調は「確認要求をあらわす」(例(7))としている。

(5)「あ、ほら、桃だね(モモダ↑ネ)」 「うん、そうだね(ソー

ダ↑ネ)」 (轟木、2008：15 ①)

(6)「今から行くね(イク↑ネ)」 「うん、わかった」

(同②)

(7)「約束通り本当に行くね(イクノネ)」 「ええ、行きます」

(同③)

一方、森山(2001)は、上昇調について轟木とは異なる類型化をしている。具体的には、上昇を緩上昇と明示的上昇(急上昇、上昇)の二つに類型化している。急上昇は「自然だと判断できる範囲での最も明示的な上昇」(p.51)とする。そして、特に明示的上昇の「ね」は「強い確認要求をあらわす」(p.47)のものであり、さらに文連続の内部でも、聞き手への伝達についての確認をするような場合には、明示的な上昇の「ね」が出現する、としている。森山はピッチの高さを75ヘルツ刻みで「急上昇」「上昇」「緩上昇」と定義しているが、これらがアクセント上昇調、疑問上昇調とどのように異なるのか、あるいは共通しているのかについては言及されていない。

以上の知見を踏まえ、本研究では上昇調を郡(2003)、轟木(2008)が定義する「アクセント上昇調」「疑問上昇調」に加え、明示的に高く発音される「急上昇調」の3つに類型化する。さらに、本研究が着目する「んですよ」は下降調をとらないという立場をとる。その理由は、「ね」は低接(前接の高い拍に対して低く接続する)の「ん(の)」に後接するという点でノダ文は有核となり、下降調をとらないと考えるためである。したがって、「んですよ」の音調を「急上昇調」「疑問上昇調」「アクセント上昇調」「上昇下降調」「平調」の5つに類型化し、調査を行う。

3. 予備調査概要及び結果

3・1 調査概要

調査概要は以下の通り。

調査目的：非ノダ文(例「ですよ」「ますよね」との比較から、「んですよ」が使用される会話文を明らかにする。

被調査者：母語話者70名(20代～50代 男性34名、女性36名)

調査日時：令和2年1月

調査資料：日本語テキスト及び作例による会話文27例

(ターゲットの「よね」調査例は10例)

調査方法：

手順1. 被調査者にメールで資料を送付

手順2. 会話文を読み、ノダ文か非ノダ文かを選択する
よう指示

手順3. メール添付にて返却

調査資料は、提示順序が選択に影響があることを避けるために、カウンターバランスを採用し、2種類作成した。被調査者には適切なものを選ぶよう指示し、いずれも適切だった場合は両者に、いずれも不適切だと思った場合はほかの形式を書くように指示した。調査に使用した会話例を以下2例提示する。

(8) (会社で)

佐藤：田中さん。田中さんってギター (お弾きになるんですよ／お弾きになりますよね)。

田中：ええ、学生時代にやってただけですけど。

佐藤：よかったら、会社のバンドに入りませんか？

田中：私でいいんですか。久しぶりだけど、なんか、やってみたいなあ。

(9) (上司が外国人社員を日本人社員に紹介した後)

リー：初めまして。リーです。

山本：山本です。リーさんって、カナダから (いらっしゃいましたよね／いらっしゃったんですよ)。

リー：ええ。

山本：僕もカナダに住んでたことがあるんですよ。

リー：ええ？そうなんですか？カナダのどちらですか？

3・2 調査結果

70名全員から回答を得た。回答にノダ文と非ノダ文、もしくは他形式選択について有意な差があるか χ^2 検定を用いて調査した^{注3}。その結果、ターゲット文である「よね」10例中、ノダ文と非ノダ文の有意差無が2例、非ノダ文が有意に選択されたものが2例、ノダ文が有意に選択されたものが6例であった。ノダ文が有意に使用された「んですよ」の発話意図は「確認」1例 (例(12))、「同意求め」1例

(例(13))、「情報提示 (発話権保持)」2例 (例(14)(15))、「情報提示 (応答)」2例 (例(16)(17))であった。紙面の都合上、ノダ文と非ノダ文の選択に有意差がなかった会話 (例(10))、非ノダ文が有意に選択された例 (例(11))を1例ずつ挙げる。その後、ノダ文が有意に選択された各発話意図と会話例を示す。

〈ノダ文と非ノダ文の選択に有意差がなかった例〉

(10) (会社の社員と、その会社にインターンシップに来ている学生とが話している場面)

学生：あの一、市役所まで行きたいんですけど、ここから
だったら、電車で行くのがいいんですか。

社員：えっと一、どうでしょうね一。電車は、駅までが遠い
んですよ。

学生：はあ。

社員：バスのほうが、本数も多いし。と言っても、30分
に1本ですけどね。

学生：あーそうなんですね。

社員：ええ、ここ、(不便なんですよ／不便ですよ)。

($\chi^2(1)=2.449$, ns)

〈非ノダ文を選択した回答が有意に多かった例〉

(11) (会社で、同僚のBが書類をなくしたと言った後の場面)

A：書類ありましたか？

B：いいえ、今探しているんですけど。なかったらまずい
ことになりますよね。

A：ええ。コピー、取ってませんよね。

B：はい、もう一度よく探してみます。

($\chi^2(2)=31.05$, $p<.01$)

次に、ノダ文が選択された回答が有意に多かったものを発話意図とともに示す。

【確認】

聞き手優位の情報について、自身が真だと考えている命題内容の妥当性を聞き手に問う。

(12) (上司が外国人社員を日本人社員に紹介した後)

リー：初めまして。リーです。

山本：山本です。リーさんって、カナダからいらっしゃった
んですよ。

リー：ええ。

山本：僕もカナダに住んでたことがあるんですよ。

リー：ええ？そうなんですか？カナダのどちらですか？
($\chi^2(2)=92.952, p<.01$)

【同意求め】

聞き手から同意を引き出す。

(13) (会社で同僚の山本にパソコンのトラブルについて相談を受けている)

青木：山本さん、ちょっとお願いがあるんですけど。

山本：どうしたんですか。

青木：さっき、間違って売り上げデータのファイルを、ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ。

山本：えー、そりゃまずいね。

青木：で、山本さん、コンピュータ詳しいですよ。助けてもらえないかって思ったんですけど。

山本：うーん、ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ。
あー、僕には無理だなあ。えっと、人事の伊藤さん、知ってますか？

青木：あの、眼鏡をかけてて、すごく背の高い人ですか？

山本：そうそう。彼だったら、何とかしてくれると思いますよ。悪いけど、彼に聞いてもらえません？

青木：わかりました。ありがとうございます。お時間とってしまっ、すみません。

山本：あー、いえいえ、こちらこそ何もできなくて。
(67 名がノダ文、3 名が非ノダ文を選択)

【情報提示 (発話権保持)】

話し手優位の情報を聞き手に提示し、発話権を維持する。

〈保持 1〉

(14) (会社で同僚を誘う)

A：Bさんって、ピアノ興味ありますか？

B：ええ。

A：私、趣味でピアノをやってるんですけど、今度小さなコンサートがあるんですよ。で、よかったらどうかと思って。

B：へー、いつですか？ ($\chi^2(2)=97.495, p<.01$)

〈保持 2〉

(15) (学生時代に大変だったことを話している)

A：んー、何が大変だったのかな。たぶん英語と数学が、とにかく宿題が多くて。毎日。

B：多かった？ふーん。

A：毎日大体、あって、

B：うん。

A：で、英語は2つ、文法とリーディングとあったんで、

B：うんうんうん。

A：その、ま、両方予習していかないといけなくて。あ、あと、でも国語もあったかな、宿題が。

B：へえー。

A：国語は予習で言葉を調べてこいって言われたんですよ。

B：あー、あー、あー、あー。ふーん。

A：本当に大変だったー。 ($\chi^2(2)=91.238, p<.01$)

【情報提示 (応答)】

聞き手の問いかけに対し回答する。

〈応答 1〉

(16) (大学の部室で山本が先輩に話しかける)

山本：あ、先輩、おはようございます。

先輩：おっ、山本くん、どうしたの？なんか元気ないね。

山本：いや、実は、今日、物理の試験だったんですけど、半分も書けなかったんですよ。

先輩：えっ、めずらしいね。勉強したんでしょ？

山本：ええ、しなかったわけじゃないんですけど。

先輩：うん。

山本：昨日、ちょっと出かけちゃったんですよ。

先輩：出かけたって？

山本：ちょっとカラオケ。

先輩：あー、それじゃ、できるはずないよ。前の日ぐらい勉強しないと。

山本：ですよー。1時間で帰ればよかったなあ。

(68 名がノダ文を選択、2 名が「んですよ」と回答)

〈応答 2〉

(17) (会社で先輩が後輩をレクリエーションに誘って

る場面)

先輩：ねえ、今度会社のレクリエーションでバレーボール大会があるんだけど、出てくれない？

後輩：んー…、私、運動苦手なんですよね。

先輩：ああ、そうなんだ。でも、楽しむことが趣旨なんだから、勝ち負けは関係ないんだけど。

後輩：あ、そうなんですわね、じゃあ。

(68名がノダ文を選択、2名が「んです」と回答)

予備調査の結果を踏まえ、ノダ文が必須であった会話6例を本調査で使用するものとした。

4. 本調査概要及び結果

4・1 調査概要

調査概要は以下の通り。

調査目的：各用法における母語話者と学習者との音調の違いを知る。

調査場所：文教大学、会議室ベネチア（東京都新宿区）、福井工業高等専門学校

調査日時：令和2年1月～3月

被調査者：日本語母語話者（南関東出身者）30名

日本語学習者（N1,N2保持者）17名

学習者の国籍及び習熟度：

中国14名、モンゴル2名、マレーシア1名

N1保持者14名、N2保持者3名

調査資料：「んですよね」6例を含む会話文22例

調査方法：

手順1. 調査実施関連書に基づき、調査内容を説明の上、同意書を記入

手順2. 会話文を黙読、学習者には内容、使用語彙について質問があれば回答

手順3. 筆者と会話文の読み上げ（ターゲット文のある話者を被調査者が担当）

手順4. 会話文の読み上げ後、母語話者には、使用に不自然なものがないか、学習者には、ノダ文の意味や自身の使用状況について聞き取り

手順5. 読み上げ実験で得られた各発話意図の音調を聴覚印象にて分類

読み上げ会話はすべて被調査者の同意を得たうえで録音した（OLYMPUS IC RECORDER DM-750を用いてPCM形式で録音）。なお、被調査者にはターゲットがノダ文であることは知らせず、「日本語で話す時にどのような話し方が適切かを知ることが目的」とであると伝えており、全ての会話文について方法、場面、自分の担当が確認できるように以下のように提示した。さらに、読み上げ順序についてはカウンターバランスを採用した。

[提示例]

手順は以下の通りです。よろしくお願いいたします。

1. 黙読して、状況を思い浮かべる。

2. ゴシック体の方を担当し、できるだけ自然な会話になるように読み上げる。

※ ゴシック体のセリフに違和感があれば、ご自分が自然だと思う発話に言い換えてください。

場面：会社で同僚を誘う

あなた：木村

木村：田中さんって、ピアノ興味ありますか？

田中：ええ。

木村：私、趣味でピアノをやってるんですけど、今度小さなコンサートがあるんですよ。で、よかったらどうかと思って。

田中：へー、いつですか？

4・2 調査結果

母語話者、学習者の結果を表1に示す。

母語話者の調査結果から、市村(2015)の結果を概ね支持していることがわかる。具体的には「んですよね」についても「んだよね」同様、アクセント上昇調、上昇下降調、平調が選好され、「確認」においては上昇下降調、アクセント上昇調が使用される傾向にあった。「同意求め」は平調も同程度使用された。一方、話し手優位の情報を伝える場面においてはアクセント上昇調、平調が選好された。さらに、「情報提示（発話権維持）」ではアクセント上昇調長呼、「情報提示（応答）」ではアクセント上昇調、平調の長呼が使用される傾向にあった。

表1 母語話者の読み上げ実験結果

	アク	急上	疑問	上下	平	他 ^{注4}
確 認	13	1	0	12	1	3
同意求め	9	1	0	11	9	0
保 持 1	24 (11)	0	0	0	3	3
保 持 2	21 (17)	0	1	1	3 (1)	4
応 答 1	18 (15)	0	0	0	10 (9)	2
応 答 2	8 (7)	0	1	0	20 (19)	1

※（ ）内に長呼された数を示す。

次に、学習者の調査結果を表2に示す。学習者は疑問上昇調の使用がなかったため、除外した。

表2 学習者の読み上げ実験結果

	アク	急上	上下	平	他	×
確 認	6 (2)	5	1	4	1	0
同意求め	5 (3)	1	5	5 (2)	0	1
保 持 1	6	2	1	5 (1)	2	1
保 持 2	7 (2)	1	1	6	0	2
応 答 1	5 (3)	0	1	8 (2)	1	2
応 答 2	3 (2)	0	1	9 (4)	1	3

※（ ）内に長呼された数を示す

「苦手なんですけ、よ、ね」「いらっしゃったんですね、よね」のような言い間違いや失敗例が見られたため、それらを対象外（表2では「×」）とした。

学習者の結果は、以下3点にまとめられた。

- 1) いずれにおいてもアクセント上昇調、平調が使用されるが、そのほかに「確認」場面においては急上昇が、「同意求め」場面においては上昇下降調が使用された。
- 2) 「情報提示（保持）」「情報提示（応答）」場面において

はアクセント上昇調と平調が使用される傾向にある。

3) 母語話者と比較すると長呼の使用が少ない。

さらに、表には載せていないが、会話内容にかかわらず平調を使用した学習者が2名、上昇下降調を使用した学習者が1名いた。

会話の読み上げ終了後、学習者に「「んです」という文法を勉強したことがあるか」「(勉強した学生については)どのような意味があると習ったか」「自分では「んです」をよく使うと思うか」の3点について聞き取りを実施した。結果は以下の通りであった。

- 「んです」を勉強したことがあるか
 - ・ 勉強したことがある（10名）
 - ・ 勉強したことがない（5名）
 - ・ 覚えていない（2名）
- 「んです」はどのような意味があると習ったか。

※ 複数回答あり

- ・ 強調（6名）
- ・ 理由の説明（3名）
- ・ 説明（3名）
- ・ やわらげ（3名）
- ・ 前置き（「んですけど」の形で）（1名）
- ・ 覚えていない（4名）
- 自分では「んです」をよく使うと思うか
 - ・ 使う（7名）
 - ・ 相手が使ったら使う（1名）
 - ・ 使わない（9名）

「（「んです」を使う）」と回答した学生に、複合形式を使用するか聞いたところ、「んですけど」（「んですが」）は使うという学習者が4名いたものの、それ以外の形式は全員使わないという回答であった。一方、「（「んです」を）使わない」と回答した学習者の理由は以下の通りであった。

- ・ それまでに習った「行きます」「そうです」のような言い方のほうが楽から（2名）
- ・ 使わなくても通じるから（2名）
- ・ 使い方が難しいから（2名）
- ・ 発音が難しいから（2名）
- ・ 日本語は外国語だから、そんなに感情を入れて話

せないから (1名)

5. 考察

5・1 「んですよ」の発話意図と音調との関係

本研究では予備調査を含め2つの調査を実施した。まず、予備調査の結果について考察する。「よね」のノダ文、非ノダ文の選択設問10例中、「確認」「同意求め」各1例、「情報提示（発話権保持）」「情報提示（応答）」各2例の計6例において、ノダ文を選択した回答が有意に多かった。「同意求め」「確認」は非ノダ文も可とする例があったが、これは非ノダ文の「よね」でも表せる発話意図であるためであろう。一方、情報提示はすべての会話例においてノダ文が有意に選択されたが、これは蓮沼（1992）がすでに指摘している通り、聞き手に欠けた（と話し手が考えている）情報を伝える場合にはノダが必須であるためである。

つぎに、本調査の結果について考察する。本調査では予備調査の結果を踏まえ、「んですよ」の発話意図と音調との関係を調査した。母語話者対象の調査の結果、アクセント上昇調、平調、上昇下降調が選好されており、「確認」では主に上昇下降調とアクセント上昇調が、「同意求め」では上昇下降調、アクセント上昇調、平調がそれぞれ同程度使用されていた。「情報伝達（発話権保持）」ではアクセント上昇調長呼が、「情報伝達（応答）」では平調長呼及びアクセント上昇調長呼が選好されていた。この結果は市村（2015）結果を支持するものであり、「ノダ+よね」は敬体・常体とも表3のように同様の発話意図と音調と対応があると言えそうである。

表3 「ノダよね」の発話意図と音調との関係

発話意図	音 調
確認	上昇下降調・アクセント上昇調
同意求め	上昇下降調・アクセント上昇調・平調
情報提示(保持)	アクセント上昇調（長呼）
情報提示(応答)	平調長呼・アクセント上昇調長呼

本調査の結果、「同意求め」では平調がその他の音調と同程度使用されていたが、それは以下の通り説明できる。

(13)'を見られたい。

(13)' (会社で同僚の青木にパソコンのトラブルについて相談を受けている)

青木：山本さん、ちょっとお願いがあるんですけど。

山本：どうしたんですか。

青木：さっき、間違って売り上げデータのファイルを、ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ。

山本：えー、そりゃまずいね。

青木：で、山本さん、コンピュータ詳しいですよ。助けてもらえないかって思ったんですけど。

山本：うーん、ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ。

あー、僕には無理だなあ。えっと、人事の伊藤さん、知ってますか？

(13)'において、山本は青木に「ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ」と、同意を求めているが、これは点線箇所

の青木の発話「ゴミ箱に入れて消しちゃったんですよ」の繰り返しである。つまり、すでに真である命題であることを承知しており、相手からことさら同意を引き出す必要がなかったため、平調を使用したと考えられる^{注5}。

森山（2001）が指摘した明示的上昇については、本調査では「確認」で2例観察されたものの、明らかにできなかった。ただし、情報提示場面で「急上昇」が観察されなかったことから、森山（2001）が指摘する通り、明示的上昇の「ね」は「強い確認要求をあらわす」（p.47）ものであるため、当該場面の音調としては不適切であると考ええる。

「情報提示（応答）」のうち、(17)の会話は平調長呼が使用されていた。会話を再掲する。

(17) (会社で先輩が後輩をレクリエーションに誘っている場面)

先輩：ねえ、今度会社のレクリエーションでバレーボール大会があるんだけど、出てくれない？

後輩：んー…、私、運動苦手なんですよ。

先輩：ああ、そうなんだ。でも、楽しむことが趣旨なんだから、勝ち負けは関係ないんだけど。

後輩：あ、そうなんです、じゃあ。

これは応答の内容が影響していると考ええる。つまり、聞き手の誘いに対し、非選好的応答であるため、あえて独話

的な平調長呼が選好されたのではないかと考える（「長呼」の使用については5.2で後述）。本研究では平調と「情報提示（応答）」との関係については指摘にとどめ、稿を改めて考察する。

5・2 学習者の困難点

次に、母語話者との違い及び聞き取り調査を中心に、学習者の「んですよ」に関する困難点を考察する。

まず、会話の読み上げ実験から、学習者は以下の点で母語話者と異なる音調の使用が観察された。

- 1) 「確認」場面でも平調が使用される。
- 2) 「情報提示」場面では、母語話者同様アクセント上昇調、平調が使用されたが、長呼する学習者が少ない。

本調査は学習者の調査人数が少なく国籍に偏りがあるため、さらなる検証が必要であるが、母語話者の調査結果を踏まえると、相手から肯定的返答を引き出す「確認」場面では、明示的な上昇を伴った「ね」の使用が適切であろう。さらに、情報提示場面では母語話者は長呼する傾向にあった。これは、以下のように説明できる。「よね」の基本義は「確認」「同意求め」である。例えば宮崎（2000：13）では、「よね」は「そうでなければならぬと話し手が考える事柄を命題として示し、それが現実に対応していることを確認する表現である」としている。その「よね」が情報提示のノダ（市村・堀江2013）と共起することにより、情報提示場面での使用が可能となる。しかし、その場合は相手に肯定的返答を求めることは適切ではない。したがって、上昇した場合も「ねー」と長呼させることにより、「当該情報を話し手自身で処理中である」という心的態度を明示する。（17）'を見られたい。

（17）'

先輩：ねえ、今度会社のレクリエーションでバレーボール

大会があるんだけど、出てくれない？

後輩：んー…、私、運動苦手なんですよ。

ここでもし「苦手なんですよ」と言ってしまうと、直接的な断りと解釈されるであろう。そうした聞き手に対する

非選好的応答の場合において、母語話者は「んですよー」と長呼させていた。それには、聞き手に対し非選考的な応答をする場合に、相手に対する話し手の配慮があると考えられる。そうであれば、この「んですよ」に関する知識は、日本語話者の発話意図を正しく理解するという点においても、母語話者に配慮した応答をするという点においても必要であろう。

次に、学習者に対する聞き取り調査について考察する。聞き取りの結果、学習者は「んです」の意味を「強調」「（理由の）説明」「やわらげ」などと理解していることがわかった。さらに、実際に使用するかどうかについては、半数が「使用せず」と回答し、その理由として「「んです」を使わなくても意味は変わらないから」と述べる学習者がいた。それらの回答は「んです」が担う発話意図を正しく認識しておらず、その結果、当該形式は必須の形式ではないと考えている学習者が一定数いることを示唆する。しかし、母語話者に対する予備調査の結果から、少なくとも今回着目した「んですよ」は10例中6例でノダが必須と判断された。その結果を踏まえると、学習者にまずどのような状況で「んです」が必須となるかを指導した後、「んですけど」のように一つの表現として「んですよ」を提示し、当該形式の発話意図と適切な音調を指導する必要がある。紙面の関係上、「んです」の発話意図については別稿に譲るが、特に、本研究が着目したノダ形式の「んですよ」が「情報提示」場面における非選好的応答に使用されると考えると、当該形式の発話意図と音調との関係を指導することが、学習者の母語話者との良好な関係構築の一助となると考える。

6. おわりに

本研究では、「んですよ」に着目し、その発話意図と音調との関係を体系的に示し、学習者に提案した。特に本研究における当該形式の発話意図と音調との関係は市村（2015）の結果を支持したことから、「ノダ+よね」の発話意図と音調との関係はスピーチスタイルに関わらず統一的に説明できると考える。ノダ形式のなかでも使用頻度が高く、しかも異なる発話意図を示す「んですよ」はまず一つの表現として学習者に提示、理解させてから、産出を

促すというスパイラル的指導法が有効であると考ええる。

今後の課題を2点挙げる。1点目は調査の妥当性についてである。今回の読み上げでは、「んですよ」など複合形式をほとんど使わないという学習者に対して課したため、今回の調査が実際の使用状況を反映できているかどうかはさらなる検証が必要である。今後は「まず「んですよ」を理解させたうえで会話を読ませる」などの工夫が必要であろう。2点目は母語話者の使用音調の妥当性である。学習者の最終目標は「母語話者になる(使用を模倣する)」ことではない。目標は「日本語話者と良好な人間関係を構築しつつ、自分が伝えたい内容を自分が思ったとおりに伝えられる」ことであると考ええる。そう考えると、今回の調査結果から得られた発話意図と音調との関係の妥当性について、母語話者に対する印象度調査を行うなどして検証する必要がある。以上を今後の課題とする。

謝辞：本調査にご協力いただいたみなさまに心から感謝いたします。なお、本研究はJSPS 科研費 19K23331 (研究代表者 市村葉子) の助成を受けたものです。

参考文献

- 市村葉子, 「「んですよ」の発話意図を解釈する手がかりとは? -発話意図と音調との対応関係に注目して」(『日本語/日本語教育研究』6号, 2015), 149-164 頁。
- 市村葉子・堀江薫, 「「のだ文」を用いた日本語学習者の伝達方略-話し言葉コーパスの分析に基づいて」(『第16回大会発表論文集』9号, 2014), 1-8 頁。
- 郡史郎, 「イントネーション」(上野善道(編), 『朝倉日本語講座3 音声・音韻』, 朝倉書店, 2003) 109-131 頁。
- 轟木靖子, 「東京語の終助詞の音調と昨日の対応について-内省による考察」(近畿音声言語研究会, 『音声言語IV』, 2008) 5-28 頁。
- 野田春美, 「第8章 終助詞の機能」(宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃, 『モダリティ(新日本語文法選書4)』, くろしお出版, 2002) 261-288 頁。
- 蓮沼昭子, 「終助詞の複合形「よね」の用法と機能」(筑波大学つくば言語文化フォーラム(編), 『対照研究 第二号 発話マーカーについて』) 63-77 頁。
- 宮崎和人(2002)「第6章 確認要求」(宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃, 『モダリティ(新日本語文法選書4)』, くろしお出版, 2002) 203-227 頁。
- メイナード, K・泉子, 『日本語教育の現場で使える 談話表現ハンドブック』(くろしお出版(2005))。
- 森山卓郎, 「終助詞「ね」のイントネーション-修正イントネーション製菓の試み-」(音声文法研究会(編), 『文法と音声Ⅲ』, くろしお出版, 2001) 31-54 頁。
- 山内博之, 「語彙習得研究の方法-茶釜とNグラム統計」(第二言語習得研究会(編), 『第二言語としての日本語の習得研究』, 7号, 凡人社, 2004) 141-161 頁。
- Maynard, Senko K, Interactional functions of formulaicity: A case of utterance-final forms in Japanese, *Proceedings of 15th International Congress of Linguists* (1993), 1, Quebec City, Canada: Laval University, 355-357.

注記

- 注1) ノダは話し言葉では「んですよ」「の」「んだ」として現れる。ただし、Maynard (1993)、メイナード (2005) では、この3つに限らず、本研究で述べるノダ形式も踏まえた調査を行っている。
- 注2) 「明日試験あるんですよ」のように文末にノダ(例:んですよ、んだ)を伴う文をノダ文、「明日試験ありますよね」のようにノダを伴わない文を非ノダ文と呼ぶ。
- 注3) 明らかに有意差が認められる場合は χ^2 検定を行っていない。
- 注4) 「他」は表現を変えた例である。例えば「情報提示」場面では「んですよ」「んですよ」が、「確認」場面では「んですよ」などが採用された。
- 注5) 宮崎(2002)では「よね」は常識に属する事柄を確認する用法があり、この用法は「次に述べることの前提を確保するために、分かりきっていること(当然そうであるはずのこと)をあえて確認する用法と位置づけることができる」(p.224)と述べている。

付録

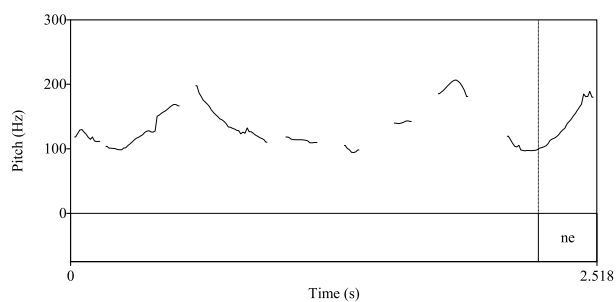


図1 ごみ箱に入れて消しちゃったんですよ
(アクセント上昇調)

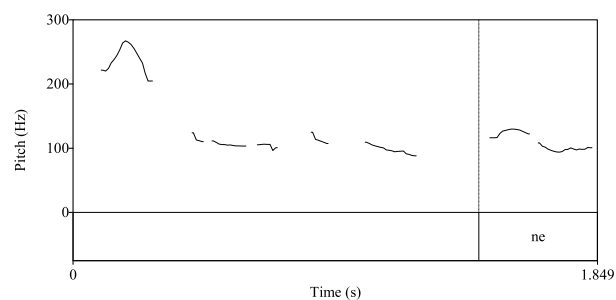


図2 カナダからいらっしゃったんですよ
(上昇下降調)

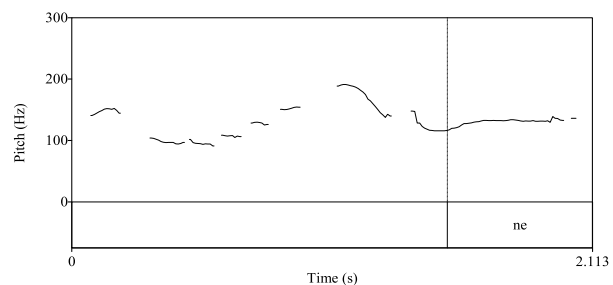


図3 ちょっと出かけちゃったんですよ
(アクセント上昇調長呼)

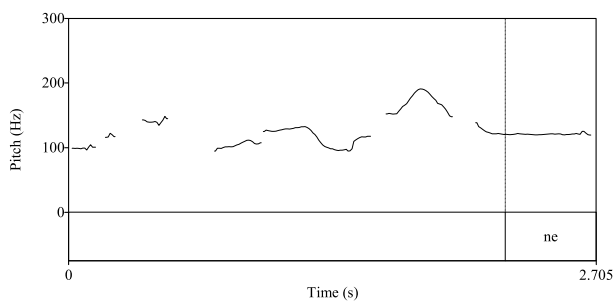


図4 私運動苦手なんですよ (平調長呼)

英語の遠隔授業について

森

貞*¹

On Synchronous Online Teaching of English as a Foreign Language

Sadashi MORI

This paper aims to investigate how to improve my online teaching of English by analyzing the results of the survey conducted with students who took my online English classes utilizing Microsoft Teams for Education as a platform for me to give lessons from May 7 to August 5. In Section 2, I mention the classes whose students take my English classes this year (2020) and the textbooks I use in my classes. In Section 3, I show my teaching schedule from May 7 to August 5, which has already been performed, in chronological order. In Section 4, I refer to my teaching methods and contents used in my online English classes. In Section 5, I mention a mid-term examination consisting of three parts: Grammar, Vocabulary, and Listening Comprehension, which was carried out using Microsoft Forms as a platform to make students take the examination. Section 6 and 7 show the results of students' questionnaire survey and their feedback on my online English classes, respectively. Section 8 is the summary of this paper.

Keywords : Synchronous Online Teaching, Microsoft Teams, Microsoft Forms, Questionnaire Survey, Feedback.

1. はじめに

中国の河北省武漢市を発生源とする新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が 2020 年に入って世界規模で感染拡大したことにより、感染拡大防止の観点から、筆者の勤務校においても、2 月下旬より休校措置がとられるようになり、年度が変わった 4 月以降も対面授業が実施できない状態が続いた。学生の教育を受ける機会を保証するために、5 月 7 日から遠隔で授業を開始することが決定し、遠隔授業期間延長を経て、8 月 7 日 (6 日・7 日は授業予備日) まで遠隔授業を実施することとなった。本稿は、5 月 7 日から 8 月 7 日までの遠隔授業実施期間中に筆者が実施した遠隔授業に関する報告である。

本稿の構成は以下のとおりである。2 節では、担当クラス (前期時間割) と使用テキストに関する情報を示す。3 節では、

前期授業進度計画 (実施済み) を時系列で示す。4 節では、授業方法および授業内容について述べる。5 節では、前期中間テストについて述べる。6 節では、学生アンケートの結果を示す。7 節では、学生の授業に対する意見・感想を列挙する。8 節は、まとめである。

2. 担当クラス (前期時間割) と使用テキスト

2・1 担当クラス (前期時間割)

2020 年度の担当クラス (前期時間割) は以下のとおりである。

(1) ○機械工学科 3 年 (以降 M3) 44 名

月曜日 2 限目 (6 月 1 日以降 水曜日 2 限目)、木曜日 3 限目

*一般科目教室 ¹mori@fukui-nct.ac.jp

○電気電子工学科3年(以降 E3) 40名(うち留学生1名:

9月7日時点で未入国、休学者1名)

月曜日3限目、金曜日2限目

○物質工学科(以降 C3) 41名(うち留学生1名)

木曜日2限目、金曜日1限目

○機械工学科4年(以降 M4) 35名(うち留学生1名)

水曜日1限目

○環境都市工学科4年(以降 B4) 42名

月曜日1限目

2・2 使用テキスト

本年度使用のテキストは以下のとおりである。

(2) 3年生使用テキスト

○It's a Wired World (成美堂)

[以降 WW] [レベル (準中級)]

Chapter1 ~ Chapter20

インターネットとテクノロジーを題材とした総合教材。ソーシャルネットワーク、空港で荷物に付ける追跡チップなどの最新の話題を収録。初級者にも理解しやすいように易しい英文で書かれている。練習問題は、学生が積極的にコミュニケーションを取れるように工夫されている。教授用資料に各章の小テストを完備。(成美堂ホームページより転載)

○Two Sides to Every Discussion 2 (成美堂)

[以降 TS] [レベル (準中級)]

Unit 1 ~ Unit 20

好評テキスト『英語で考え、英語で発信する』の第2弾。自分の立場を明確にし、英語で意見が言えるようになることを目指した総合教材。「シェアハウスvs一人暮らし」や「コンビニ24時間営業の是非」など身近な話題で議論が弾むテーマを厳選。賛成、反対の立場で書かれた300語程度の英文を読み、内容理解の問題から、ライティング・リスニング・スピーキングの問題を収録。教授用資料には、小テストを各課に完備。(成美堂ホームページより転載)

○A Shorter Course in TOEIC® Test Listening 450(南雲堂)

[以降 L4] [レベル (初~中級)]

Unit 1 ~ Unit 5 [Part 1]

Unit 6 ~ Unit 10 [Part 2]

Unit 11 ~ Unit 15 [Part 3]

Unit 16 ~ Unit 20 [Part 4]

レベル別のTOEIC対策テキスト。聴き取りにくい音を実際に聴き取れるように各セッション毎の3ユニットでslow tape ラーニングを採り入れ、残りの2ユニットのnormal speed の聴き取りの訓練は従来の方式とおりです。主テキストと併用できる利便性のよさが特色。(南雲堂ホームページより転載)

(3) 4年生使用テキスト

○Fundamental Science in English I (成美堂)

[以降 FSE] [レベル (準中級)]

Lesson 1 ~ Lesson 10

理数系の基礎的な知識や概念を英語で表現できるようにするための高等専門学校に最適なテキスト。「足し算」などの計算式は英語でどう表現するのだろうか。そんな日常的なことをはじめ、図形、物質、グラフ、人体などエンジニアや研究者を目指す生徒が押さえておきたい基礎的な内容となっている。CLILの教材としても最適。“COCET 2600”にエンタリーされている単語が多く使われており、併用することで効果大。解説が充実した教授用資料、テキストの学習をさらに定着させる生徒用の別冊のWork Bookも完備。(成美堂ホームページより転載)

○A Shorter Course in TOEIC® Test Listening 550(南雲堂)

[以降 L5] [レベル 中~上級]

Unit 1 ~ Unit 5 [Part 1]

Unit 6 ~ Unit 10 [Part 2]

Unit 11 ~ Unit 15 [Part 3]

Unit 16 ~ Unit 20 [Part 4]

レベル別のTOEIC対策テキスト。聴き取りにくい音を実際に聴き取れるように各セッション毎の3ユニットでslow tape ラーニングを採り入れ、残りの2ユニットのnormal speed の聴き取りの訓練は従来の方式とおりです。主テキストと併用できる利便性のよさが特色。(南雲堂ホームページより転載)

3. 前期授業進度計画

5月7日から8月5日までの授業進度計画(実施済み)を以下に示す。

(4) 5 月

07 日 (木) 3C (WW Chapter 1), 3M (WW Chapter 1)
 08 日 (金) 3C (TS Unit 1. L4 Unit 1), 3E (TS Unit 1. L4 Unit 1)
 11 日 (月) 4B (FSE Lesson 1, Part 1 & 2. L5 Unit 1)
 3M (TS Unit 1. L4 Unit 1)
 3E (WW Chapter 1)
 13 日 (水) 4M (FSE Lesson 1, Part 1 & 2. L5 Unit 1)
 14 日 (木) 3C (WW Chapter 2), 3M (WW Chapter 2)
 15 日 (金) 3C (TS Unit 2. L4 Unit 6), 3E (TS Unit 2. L4 Unit 6)
 18 日 (月) 4B (FSE Lesson 1, Part 3 & 4. L5 Unit 6)
 3M (TS Unit 2. L4 Unit 6)
 3E (WW Chapter 2)
 20 日 (水) 4M (FSE Lesson 1, Part 3 & 4. L5 Unit 6)
 21 日 (木) 3C (WW Chapter 3), 3M (WW Chapter 3)
 22 日 (金) 3C (TS Unit 3. L4 Unit 11)
 3E (TS Unit 3. L4 Unit 11)
 25 日 (月) 4B (FSE Lesson 2, Part 1 & 2. L5 Unit 11)
 3M (TS Unit 3. L4 Unit 11)
 3E (WW Chapter 3)
 27 日 (水) 4M (FSE Lesson 2, Part 1 & 2. L5 Unit 11)
 28 日 (木) 3C (WW Chapter 4), 3M (WW Chapter 4)
 29 日 (金) 3C (TS Unit 4. L4 Unit 16)
 3E (TS Unit 4. L4 Unit 16)

6 月

01 日 (月) 4B (FSE Lesson 2, Part 3 & 4. L5 Unit 16)
 3E (WW Chapter 4)
 03 日 (水) 4M (FSE Lesson 2, Part 3 & 4. L5 Unit 16)
 3M (TS Unit 4. L4 Unit 16)
 04 日 (木) 3C (WW Chapter 5), 3M (WW Chapter 5)
 05 日 (金) 3C (TS Unit 5. L4 Unit 2)
 3E (TS Unit 5. L4 Unit 2)
 08 日 (月) 4B (FSE Lesson 2, Part 5, Lesson 3, Part 1. L5 Unit 2)
 3E (WW Chapter 5)
 10 日 (水) 4M (FSE Lesson 2, Part 5, Lesson 3, Part 1. L5 Unit 2)
 3M (TS Unit 5. L4 Unit 2)

11 日 (木) 3C (WW Chapter 6), 3M (WW Chapter 6)
 12 日 (金) 3C (TS Unit 6. L4 Unit 7), 3E (TS Unit 6. L4 Unit 7)
 15 日 (月) 4B (FSE Lesson 3, Part 2 & 3. L5 Unit 7)
 3E (WW Chapter 6)
 17 日 (水) 4M (FSE Lesson 3, Part 2 & 3. L5 Unit 7)
 3M (TS Unit 6. L4 Unit 7)
 18 日 (木) 3C (WW Chapter 7), 3M (WW Chapter 7)
 19 日 (金) 3C (TS Unit 7. L4 Unit 12)
 3E (TS Unit 7. L4 Unit 12)
 22 日 (月) 4B (FSE Lesson 4, Part 1 & 2. L5 Unit 12)
 3E (WW Chapter 7)
 24 日 (水) 4M (FSE Lesson 4, Part 1 & 2. L5 Unit 12)
 3M (TS Unit 7. L4 Unit 12)
 25 日 (木) 3C (WW Chapter 8), 3M (WW Chapter 8)
 26 日 (金) 3C (TS Unit 8. L4 Unit 17)
 3E (TS Unit 8. L4 Unit 17)
 29 日 (月) 4B (FSE Lesson 4, Part 3, Lesson 5, Part 1. L5 Unit 17)
 3E (WW Chapter 8)

7 月

01 日 (水) 4M (FSE Lesson 4, Part 3, Lesson 5, Part 1. L5 Unit 17)
 3M (TS Unit 8. L4 Unit 17)
 02 日 (木) 3C (WW Chapter 9), 3M (WW Chapter 9)
 03 日 (金) 3C (TS Unit 9. L4 Unit 3), 3E (TS Unit 9. L4 Unit 3)
 06 日 (月) 4B (FSE Lesson 5, Part 2 & 3. L5 Unit 3)
 3E (WW Chapter 9)
 08 日 (水) 4M (FSE Lesson 5, Part 2 & 3. L5 Unit 3)
 3M (TS Unit 9. L4 Unit 3)
 09 日 (木) 3C (WW Chapter 10), 3M (WW Chapter 10)
 10 日 (金) 3C (TS Unit 10. L4 Unit 8)
 3E (TS Unit 10. L4 Unit 8)
 13 日 (月) 4B (FSE Lesson 5, Part 4. L5 Unit 8)
 3E (WW Chapter 10)
 15 日 (水) 4M (FSE Lesson 5, Part 4. L5 Unit 8)
 3M (TS Unit 10. L4 Unit 8)

16 日 (木) 3C (前期中間テスト), 3M (前期中間テスト)

17 日 (金) 3C ①, 3E (前期中間テスト)

20 日 (月) 4B (前期中間テスト), 3E ①

22 日 (水) 4M (前期中間テスト), 3M ①

27 日 (月) 4B ①, 3E ②

29 日 (水) 4M ①, 3M ②

30 日 (木) 3C ②, 3M ③

31 日 (金) 3C ③, 3E ③

8 月

03 日 (月) 4B ②, 3E ④

04 日 (火) 木曜日の時間割

3C ④, 3M ④

05 日 (水) 金曜日の時間割

4M ② (時間割変更)

(注)①～④：洋画・洋楽を使った英語学習

① Lion King, Can you feel the love tonight? (Elton John)

② Jurassic Park, Eternal Flame (The Bangles)

③ Roman Holiday, Happy (Pharrell Williams)

④ E.T., Fantasy (Earth, Wind & Fire)

4. 授業方法・授業内容

遠隔授業の授業支援ツールとして、Microsoft Teams を利用し、オンデマンドではなく、ライブでの授業【90 分】を行った。授業実施に際して特に気をつけた点は、対面授業再開後に、学生が戸惑わないように、通常の対面授業において実施してきた(する)授業構成を可能な限り取り入れたことである。具体的な授業方法・授業内容を以下に示す。

(5) 市販のテキストを用いた授業の場合：

○ It's a Wired World ([2] [5] 以外は問題演習 (学生に一定の時間を与え、解答後、教員が PowerPoint を用いて正解の提示・説明))。

[1] Vocabulary (日本語訳とのマッチング)

[2] Reading (音声を聞かせた後に、PowerPoint—スマホで授業を受けている場合を考慮し、文字サイズをできるだけ大きくした—を用いた語彙・文法項目の視覚的説明、日本語訳の提示)

[3] True or False (本文内容に関する正誤問題)

[4] Reading Comprehension (本文内容に関する英問英答)

[5] Grammar (文法項目の説明)

[6] Composition (並び替え)

[7] Word Sense (適語選択)

[8] Dialogue (音声を聞かせ、聞き取り穴埋め)

[9] Dialogue Questions (会話内容に関する英問英答)

○ Two Sides to Every Discussion 2 ([2] [4] 以外は問題演習 (学生に一定の時間を与え、解答後、教員が PowerPoint を用いて正解の提示・説明))。

[1] Pre-Reading Vocabulary Task (日本語訳とのマッチング)

[2] Reading (音声を聞かせた後に、PowerPoint を用いた語彙・文法項目の視覚的説明、日本語訳の提示)

[3] Comprehension (要約文と段落のマッチング)

[4] Grammar Point (文法項目の説明)

[5] Writing (Key Expression を用いた英作文)

[6] Listening Dictation (聞き取り穴埋め)

[7] Speaking (Key Expression を用いた口頭英作文)

○ Fundamental Science in English I

[1] Reading (音声を聞かせた後に、PowerPoint を用いた語彙・文法項目の視覚的説明、日本語訳の提示)

[2] Word (新出単語 (特に technical term) の発音、意味の確認)

[3] Grammar and Expression (文法項目の説明)

[4] Practice (学生に一定の時間を与え、解答後、PowerPoint を用いて、正解の提示・説明)

○ TOEIC TEST Listening 450/550

[1] 聞き取りのコツの説明

[2] リスニング問題演習

[3] 正解の提示・解説

90 分間の授業終了後は、Teams の「ファイル」に、Reading の日本語訳、練習問題の正解の PDF ファイル、Reading、Dialogue の音声ファイル、WW 及び TS の mini-test (自宅課題：定期試験範囲) の PDF ファイル、FSE の Workbook 問題の正解の PDF ファイルをアップロードし、自宅学習 (復習) の便宜を図った。

また、4 年生が使用している FSE の Let's try! (p.46) (英語で書かれた数学の問題 (全 8 問) (e.g. Which point is closest to the origin? A. (5, 12) B. (-6, -8) C. (10, 4) D. (0, 11)) に関して、Microsoft Forms で選択問題を作成し、各自

解答し、指定期日までに返信するように課題を与えた（4M：返信率 74.3%（26/35）、平均スコア 6.3、4B：誤って消去してしまったためデータなし）

対面授業と大きく異なる点は、（ここ 10 年ほど続けている）英語による授業ではなく、日本語による授業を実施していることと、音読の時間をとっていないことである。また、対面授業では、英文の日本語訳と練習問題の解答を宿題としているが、（学生の負担を考慮し、）英文の内容を確認しておくように指示することに留めた。そのため、練習問題を授業時間中に解かせることとなり、正解を提示するタイミングは、解答完了した学生に、会話チャットで「いいね」を押させ、出席人数の 3 分の 2 に達した時点とした（練習問題の解答に割く時間が想定よりも時間がかかり、授業時間の構成に苦労した）。

遠隔授業で、失敗した点としては、画面共有（PC 内音源のオーディオ共有を含む）、マイクオンにして、授業をすすめていたのに、いつのまにか、画面共有が切れていたり、マイクがオフになっていたりして、授業進行に支障をきたすことが何度あったことである。学生が会話チャットで指摘してくれていたのに、PowerPoint で説明している時などは、会議チャットの画面を見ることができず、気づかずに、授業を進めてしまい、時間のロスにつながった（学生にはそのような場合にはマイクオンで指摘するようお願いしたが、発言し辛いようであった）。また、通信状態が悪く、学生側で教員の音声途切れたり、動画（特に洋画）の動きがぎこちなくなっていることがあったようで、この点に関しては、教員が使用するパソコンのスペックも含めて、学校全体で対処しなくてはならない問題であるように思われる。

(6) 洋画・洋楽を用いた授業の場合（教材は事前に Teams のファイルにアップロード）：

- [1] Warm Up (Topic Question に答える)
- [2] Story 〈洋画の plot (あらすじ)〉(音声 (教員の音読) を聞かせた後に、PowerPoint を用いた語彙・文法項目の視覚的説明、日本語訳の提示)
- [3] Vocabulary (適語選択)
- [4] Multiple-Choice Questions (Story の内容に関する (教員の音読による) 英語の口頭質問 (全 5 問) に対して、Microsoft Forms で作成した選択問題 (4 択) に解答後、返信させる)

○ Lion King

	返信率 (出席率)	平均スコア
3M	91% (40/44)	3.0
3E	87% (34/39)	3.1
3C	83% (34/41)	3.1
4M	80% (28/35)	3.9
4B	76% (32/42)	3.5

○ Jurassic Park

	返信率 (出席率)	平均スコア
3M	96% (42/44)	3.0
3E	92% (36/39)	2.7
3C	83% (34/41)	3.0
4M	86% (30/35)	3.0
4B	76% (32/42)	2.7

○ Roman Holiday

	返信率 (出席率)	平均スコア
3M	96% (42/44)	2.8
3E	85% (33/39)	2.2
3C	78% (31/40)	3.2

○ E.T.

	返信率 (出席率)	平均スコア
3M	96% (42/44)	3.0
3E	90% (35/39)	2.7
3C	83% (34/41)	3.0

- [5] Movie Lines (洋画の 1 シーンを 4 回視聴させ、台詞の聞き取り問題 (穴埋め 15 か所) に答えさせる。その後、正解を提示する。正解提示後、同シーンを、英語音声・英語字幕、日本語音声・英語字幕で再度視聴させる)
- [6] Song Lyrics (洋楽を 2 回聞かせて、歌詞の聞き取り問題 (穴埋め 15 か所) に答えさせる。その後、正解を提示する。日本語訳を提示後、全員で「歌唱」する)

5. 前期中間テストの実施

遠隔授業の期間は、前期中間テスト（例年 6 月中旬に実施）はしなくて良いことになっていたが、前期末テストだけで成績評価すること（対面授業ではテキスト英文内容に関する小テストの成績も加味していたが、遠隔授業では、公平性の観点から小テストの実施は難しいと判断した）は学生に精神的ストレスをかける可能性があるかと判断し、前期中間試験を実施することとした。実施にあたっては、Forms で実施することにし、万全を期すために、予行練習を行うこととした。

テスト内容は、文法テスト、単語テスト、リスニングテス

トの3部から構成し、文法テスト、単語テスト（の予行練習）は、授業時間外に自分の都合の良い時間に、Forms にアクセスして返信するように指示し、リスニングテスト（の予行練習）に関しては、授業時間内に実施することとした（リスニングテストの予行練習を実施した日：3M（06/18）、3E（06/22）、3C（06/18）、4M（07/15）、4B（07/13））。

前期中間テストに関して、Teams の「投稿」に下記の内容を投稿し、授業中にも口頭で説明をした（〇はクラスによって異なる）。

(7) 重要なお知らせ（文法・単語・リスニングのテスト範囲および実施日）

- ・文法テストの試験範囲：頻出 740 の対策プリント（「ファイル」にアップロード済み）をしっかりとっておくこと
- ・単語テストの試験範囲：Database4500 の対策プリント（「ファイル」にアップロード済み）をしっかりとっておくこと
- ・リスニングテストは TOEIC TEST Listening Section Part 2 の問題形式（初出）
- ・試験実施日：7月〇日（〇）〇限目（この時間帯以外で試験は受けられません：成績評価対象の重要な試験ですから、欠席をしないこと。未受験者は0点となります）
- ・Forms を用いて試験をしますので、試験練習日を設けます（文法・単語テスト（練習）は、6月中旬に各自実施（詳細は近日中に連絡します）すること。リスニングテスト（練習）は〇月〇日（〇）〇限目の授業時間中に実施します（欠席しないこと））。

文法テスト（40問 試験時間 15分）40点分

単語テスト（40問 試験時間 15分）40点分

リスニングテスト（20問 CDの音声を聞いて問題に答える）20点分

このメールを受け取り、内容を理解した人は、必ず、「いいね」を押して返信してください。

不正行為防止の観点から、試験問題は、クラス毎に異なる問題を作成し、試験時間も Forms の解答画面アクセスから返信までを含めて15分（設定可能な最短の時間）に設定した（リスニングテストは試験終了後直ちに返信するよう指示した）。

実際に実施して、不都合が生じた点は以下のとおりである。

(8) [1] 返信時の通信状態によって、制限時間内に返信完了できない学生が複数出て、試験当日の放課後（16:20以降）に再試験（別問題）を実施しなくてはならない事態が生じた。

[2] Forms の問題作成時に、選択肢番号を重複記載してしまった結果（1か所）、正しい点数がフィードバックされず、全員に加点する措置をとらなければならなかった。

[3] Forms の正解設定時に、ある1クラスの正解選択肢を誤った結果（2か所）、正しい点数がフィードバックされず、学生毎に、解答をチェックし、点数の訂正をしなければならなかった。

(8-2) (8-3) は完全なヒューマンエラーであり、今後、細心の注意を払えば、再発を防止することができるが、(8-1)はその時の通信状態にかかわるため、今後、Forms で試験を実施する場合、終了時間よりもかなり早めに返信するように指導しなくてはいけないかもしれない。

Forms での試験作成で、工夫した点（楽をした点）は、選択肢を①～④に統一し、設問（問題）のところに、選択肢も含めた形（元データの試験問題は Test Maker 4（桐原書店）で自動作成し、Word ファイルに変換して、パソコンに保存）でコピー＆ペーストした点である（e.g. You () go to school because you have a slight fever. (近畿大) ① had better not to ② had not better to ③ had better not ④ had not better : 選択肢 ① ② ③ ④)。

6. 学生アンケート

遠隔授業に関して、現状の把握と、授業改善を目的として、2種類のアンケートを Forms により実施した（回答期限 8月5日午後5時）。各クラスの回答率は以下のとおりである。

(9) 授業アンケート①（選択式）および授業アンケート②（記述式）の回答率

	授業アンケート①	授業アンケート②
3M	89% (39/44)	89% (39/44)
3E	92% (36/39)	87% (34/39)
3C	90% (37/41)	85% (35/41)
4M	94% (33/35)	97% (34/35)
4B	74% (31/42)	67% (28/42)

6・1 授業アンケート①（選択式）

(10) [1] あなたが現在の居住環境で利用可能な媒体は何ですか？（複数回答可）

①コンピュータ（デスクトップ・ラップトップ）

②タブレット

③スマートフォン等の携帯電話

	①	②	③
3M	35/39	10/39	36/39
3E	35/36	12/36	35/36
3C	28/37	5/37	36/37
4M	31/33	9/33	32/33
4B	30/31	9/31	30/31
Total	90% (159/176)	26% (45/176)	96% (169/176)

[2] あなたはオンライン授業（英語の授業）で、どの媒体を利用していますか？（複数回答可）

①コンピュータ（デスクトップ・ラップトップ）

②タブレット

③スマートフォン等の携帯電話

	①	②	③
3M	32/39	4/39	23/39
3E	27/36	5/36	19/36
3C	18/37	2/37	29/37
4M	24/33	2/33	21/33
4B	23/31	2/31	16/31
Total	74% (124/176)	9% (15/176)	61% (108/176)

[3] オンライン授業の「通信環境」について教えてください。（複数回答可）

①自宅や学寮等で契約している Wi-Fi

②モバイル Wi-Fi

③スマートフォン等のデータ通信（通信量の制限なし）

④スマートフォン等のデータ通信（通信量制限あり）

	①	②	③	④
3M	36/39	3/39	3/39	14/39
3E	35/36	0/36	1/36	8/36
3C	34/37	0/37	2/37	8/37
4M	32/33	1/33	1/33	9/33
4B	29/31	0/31	3/31	9/31
Total	94% (166/176)	27% (4/176)	57% (10/176)	27% (48/176)

[4] 現在の居住環境における、オンライン授業の「通信状態」についてお尋ねします。

①ストレスなく受信出来ている

②時々途切れ、ストレスを感じることもある

③かなり途切れ、とてもストレスを感じている

	①	②	③
3M	30/39	9/39	0/39
3E	22/36	14/36	0/36
3C	19/37	18/37	0/37
4M	10/33	23/33	0/33
4B	14/31	17/31	0/31
Total	54% (95/176)	46% (81/176)	0% (0/176)

[5] オンライン授業（英語の授業）で困っていること（技術面）で該当するものがあれば、選択して下さい。（複数回答可）

①授業支援ツール（teams）の使い方がわからない

②コンピュータの操作に慣れていない

③ネット環境が十分ではない

④特になし

	①	②	③	④
3M	0/39	4/39	139	34/39
3E	3/36	7/36	2/36	28/36
3C	1/37	5/37	5/37	29/37
4M	0/33	4/33	6/33	23/33
4B	2/31	7/31	8/31	21/31
Total	3% (6/176)	15% (27/176)	13% (22/176)	77% (135/176)

[6] オンライン授業（英語の授業）で困っていること（情意面）で該当するものがあれば、選択して下さい。（複数選択可）

①集中力が続かないことがある

②勉強のペースがつかみにくいことがある

③友達と一緒に学べず孤立した気持ち（孤独な気持ち）になることがある

④特になし

	①	②	③	④
3M	20/39	13/39	10/39	9/39
3E	24/36	15/36	5/36	11/36
3C	25/37	16/37	8/37	8/37
4M	21/33	19/33	7/33	6/33
4B	22/31	18/31	15/31	4/31
Total	64% (112/176)	46% (81/176)	26% (45/176)	22% (38/176)

[7] オンライン授業（英語の授業）で良かったと思うことについて、該当するものがあれば、選択して下さい。（複数回答可）

①自分のペースで学習ができる

②学校に行かず時間が節約できる

③教室より集中できる

④リラックスして授業を受けることができる

⑤復習が何度もできる

	①	②	③	④	⑤
3M	15/39	22/39	4/39	20/39	11/39
3E	14/36	19/36	0/36	17/36	6/36
3C	16/37	25/37	1/37	24/37	8/37
4M	18/33	20/33	1/33	22/33	15/33
4B	13/31	21/31	3/31	19/31	3/31
Total	43% (76/176)	61% (107/176)	5% (9/176)	58% (102/176)	24% (43/176)

⑧ オンライン授業（英語の授業）を受けてみて、全体としての「満足度」を評価してください。

①満足している

②まあまあ満足している

③あまり満足していない

④満足していない

	①	②	③	④
3M	12/39	21/39	5/39	1/39
3E	3/36	25/36	6/36	2/36
3C	9/37	22/37	6/37	0/37
4M	10/33	18/33	3/33	2/33
4B	3/31	20/31	8/31	0/31
Total	21% (37/176)	60% (106/176)	16% (28/176)	3% (5/176)

⑨ オンライン授業（英語の授業）を受けてみて、全体としての「（授業内容の）理解度」を評価して下さい。

①十分に理解している

②まあまあ理解している

③あまり理解していない

④理解していない

	①	②	③	④
3M	3/39	31/39	5/39	0/39
3E	1/36	22/36	10/36	3/36
3C	3/37	25/37	9/37	0/37
4M	5/33	23/33	4/33	1/33
4B	1/31	22/31	8/31	0/31
Total	7% (13/176)	70% (123/176)	21% (36/176)	2% (4/176)

アンケート結果で、特に気になった項目に関して、コメントする。

(11) ○ [4] の項目：「通信状態」が悪いためにストレスを感じると回答した学生の割合が5割近くおり、良好な状態で授業に臨めていない点に関しては、何らかの方策が必要に思われる（対面授業の再開後も、入国できていない留学生がいるクラスはリモート授業の併用が必要である。また、これまで、音量を上げる必要のある活

動は、普通教室から離れた特別教室を使用していたが、校舎改築のため、後期は使用できない状況になるため、上記の活動をする際には、スマホ等に Ear Phone をつけて音声を聞かせるリモート授業方式を採用する必要がある—したがって、普通教室においても、学生のスマホやパソコンにインターネットへの Wi-Fi 接続が可能になるような措置を講じることが望ましい。

○ [6] の項目：「集中力が続かない」を選んだ学生が6割、「勉強のペースがつかみにくい」を選んだ学生が5割近くおり、これが、クラス内における英語力の差を生み出していないかを注視する必要がある。

○ [8] の項目：「あまり満足していない」「満足していない」を選んだ学生が合計で2割近くおり、その原因を明らかにし、授業改善に努める必要がある。

○ [9] の項目：「あまり理解していない」「理解していない」を選んだ学生が合計で2割を超えており、対面授業再開後に、該当する学生（Forms ではどの学生がこれらの選択肢を選んだかが分かる）に対してきめ細かいフォローアップをしていく必要がある。

6・2 授業アンケート②（記述式）

(12) [1] オンライン授業（英語の授業）を受けてみて、良かった点を自由に書いて下さい（特にない場合は、「特になし」と記入してください）。

(3M)

- ・画面を拡大したりして見られるので、通常の授業よりスライドが見やすい。
- ・耳元で聞こえるため、教室でするよりもリスニングの質が良い。
- ・聞き逃したときに見直しがしやすい点。
- ・生徒の準備が完了したかどうかを確認してから次に進めてくださること。
- ・教科書の本文の翻訳や、問題の模範解答をデータとして後から復習できること。
- ・普段の授業では携帯が使えないが、オンラインだとわからない単語をすぐ調べることができる。
- ・スライドが画面で見られるので、教室でスクリーンに投影するよりも大幅に見やすくアンダーライン等もわかりやすい。
- ・授業の内容もおそらく普段どおりの内容をそのまま行っ

いたのがよかった。

- ・自分のペースで授業を受けられること。じっくり考えることが出来る。
- ・復習ができる。
- ・復習がしやすい。
- ・文字が見えにくかったり音声聞こえづらかったりすることがない。

(3 E)

- ・復習ができること。
- ・単語の発音が周りを気にせずに行うことができる。
- ・リスニングを一人なのでいつも以上に聞きやすく、集中できた。
- ・教室で授業をすると黒板が誰かの頭とかぶって見えないなどのことがない点。
- ・Formsを用いた問題は良いと思う。
- ・自分のペースで内容の理解を進めることが出来た点が良かったです。
- ・リズムカルに授業が進むこと。
- ・大事なところはスクショなどをして、手元に残しておけるということです。
- ・プレゼンシートが見やすい。
- ・音声聞き取りやすい。
- ・わからない単語などがあった場合にスマホなどを利用して、調べることができること。
- ・しっかりとオンラインで授業をしてくれるところ。
- ・The articles in the textbook are interesting. I learnt some new facts from the articles especially about science and technologies which are my favorite kind of information.

(3 C)

- ・授業のペースが良かった。
- ・対面授業に近い授業を受けられた。
- ・分からないことをすぐに調べることができた点。
- ・歌の聞き取りとても楽しかったです。
- ・洋画では字幕を見がちだけど、聴くことを意識しようと思ったこと。
- ・復習を繰り返しできる。
- ・先生の声の大きさを自分で調整できること。リスニングの音を大きくできるのいいと思いました。
- ・本文や問題の答えなどの文字が大きく映し出されているの

で分かりやすいです。

- ・解説が丁寧でわかりやすいこと。
- ・先生が生徒のペースを考えてくださっていること。
- ・教科書の英文の本文訳と問題の答えや小テストの問題などをアップしてくださった点。変に周りを意識しないので集中出来て良かった。
- ・先生の指示がとてもわかりやすかったです。

(4 M)

- ・授業のスライドが何度も見られること。
- ・見逃した点をすぐにファイルで確認できる。
- ・ワークの問題を自力で解いて、自分ペースで解けるところ。
- ・録画した授業を再生することができる。
- ・何回も復習ができる点。
- ・和訳やスライドが後からでも見られるのが良いと思いました。
- ・分からなかった単語などすぐに調べられること。
- ・正しい訳を書いてまとめたファイルを先生がくださったこと。
- ・リスニングもしっかりと行えた点。
- ・教科書やワークの忘れ物がなくなる。
- ・パワーポイントが残るので、授業中に逃した部分を後で確認できる事。
- ・画面の拡大・縮小がラク。
- ・聴き逃したところも後で確認が出来る。
- ・自分で録画をしておけば、後から何度でも復習ができる点。
- ・授業資料（問題の答えや本文の翻訳等）をダウンロードして再度確認できること。

(4 B)

- ・授業で間に合わなかったスライドを授業後個人で見られるところ。
- ・教室だと後ろの席に座っていると授業がちゃんと聞けなかったりするので、オンラインの方が授業もリスニングもしっかり聞き取れていい。
- ・単語など黒板と違い確実に見られたこと。
- ・最後の授業のライオンキングの英語のお話と、動画と音楽が聞けた事。
- ・リスニングの練習ができたこと。
- ・リスニングの音声を調節出来る上、イヤホンを使って聞ける点。

② オンライン授業（英語の授業）を受けてみて、改善してほしいことを自由に書いて下さい（特になければ「特になし」と記入してください）。

(3M)

- ・おそらくですが、先生のマイクに機械音のような雑音が入っていて、気になります。
- ・問題を解答し終わっても、周囲が解き終わるまで待たされたりするため、少々時間の無駄がある。もう少し自分のペースで学習できたらいいと感じた。
- ・進むスピードが速いと感じることがあった。
- ・早口なところ。
- ・1人で授業をうけるせいか集中力が続かない。
- ・音の質が悪いところ。
- ・進むスピードが早いところ。
- ・解答の表示時間が短くて、自分の解答に間違いが多いと追いつかない。
- ・本文の重要な語句を色別に線を引いて解説したスライドをteamsで公開してほしい。
- ・リスニングや映画の一部の音や映像が止まったりして不具合が多いのでなるべくスムーズにしてほしいです。
- ・スピーキングの練習がオンラインだとあまりできていないと思った。
- ・教室でラジカセを使うよりもリスニングの音質が下がっている場合があるように感じる（聞き取ることはできる）。
- ・通信環境は割と整っている方だと思うのですが、音声が少し荒くなってしまって、どうしてもリスニングの音声聞き取りにくいと感じる時はあります（通信授業なので仕方ないことだと思います）。また、大事なことを聞き逃すことがあるので、音声の録音はしてほしいと思います。
- ・英単語などの訳したものが聞き取りづらかったときがあったため改めてもう一度言う、プリントにまとめるなどをして欲しいと思った。映画の映像や音声途切れ途切れになる時があった。
- ・資料のファイル形式を統一してほしい。
- ・時々音声途切れたりして正確に聞き取れないことがあったりすること。

(3E)

- ・ペースが早いので、文章の解説の時に段落ごとにほんの少し、深呼吸できる程度の間を開けて欲しい。

- ・どこら辺を読んでいるか、分からなくなることがあるのでもう少し分かりやすくしてほしいです。
- ・時々、声が聞こえていないにも関わらず、授業が進んでしまい、もう一度戻って説明する無駄な時間があるので、学生に音声スライドが見聞できることの確認を取ったり、会議チャットの欄を確認してほしい。また、Wi-Fiが切れて授業に参加できていない時があり、その時に話していた内容が聞けていない。画面録画をするなどして、Wi-Fiの不調で参加できなかった学生にも考慮してほしい。
- ・先生も慣れない授業で苦労していると思いますが、頑張ってください。
- ・本文解説でたまに早口で聞き取れないところがあるため改善してほしいです。
- ・ライオンキングやジュラシックパークの映画をみるときに音声途切れ途切れになって聞きにくい。
- ・動画を観る時、画質が悪く、音声や画面が途切れ途切れになって見にくいこと。
- ・先生側がミュートになっていることが多々あること。
- ・音声が聞き取れないことがある。
- ・時々、音声聞こえなくなること。
- ・通信環境が悪かった場合に復習できるように、授業が見返せたらいいなと思います。
- ・授業の密度が濃く、また進むスピードが速くなかなかついていけない。
- ・ミュートになっていたりして先生の声やパソコンの音声が聞こえないことがある。また、それをチャットやマイクで伝えても気づいて貰えないことがある。
- ・結構な頻度で音が聞こえない時がある。

(3C)

- ・進むのがちょいだけ早い。
- ・動画を見る際、画面の動きがぎこちないので見にくいと感じることがある。また、音声もたまに聞こえづらくなっている時があるので、分からないところがある。
- ・スライドや授業の進むペースが速いこと。スライドに追いつけない時があった。
- ・授業中のスライドも後から見られるようにしてほしいです。
- ・授業のパワポをできれば残して復習しやすいようにしてほしい。
- ・授業のパワポを残していつでも復習できるようにしてほしい。

い。

- ・教科書の英文の翻訳が速くて問題を解いてから待っている時間が長いので、ゆっくり英文を翻訳して問題を解く時間を短くして欲しいです。
- ・リスニングがたまに聞こえない。

(4M)

- ・リスニングの音が少し聞き取りづらい。
- ・資料を、授業のその日にあげて欲しかった。復習ができなかった。
- ・文の線引き・訳が早すぎて追いつかないことがある。
- ・通信が安定していない時に授業が聞き取りづらい。
- ・リスニングが少し聞こえにくかった。
- ・課題の提出に関して高専内で統一されていなく、毎回不快に思う。
- ・授業速度がはやく、少しでも集中が切れるとついていけない。
- ・レコーディングをして欲しかった。聞き逃したら終わりだった。
- ・少し早かった。
- ・授業は満足なのですが、テストは少し改善して欲しいです。文法テストの時間が少し短いような気がしました。リスニングテストも家庭の通信環境に左右されるので、問題数を減らして2回ではなく3回繰り返して欲しいです。
- ・最初に単語の説明をして欲しい。
- ・スライドが早すぎる。
- ・進むのが早くてメモを取れないことがあったので録画をしてほしかった。
- ・パソコンを通してからの、リスニングの際の音声は少しもっている感じがして聞きづらかった。

(4B)

- ・ノートに板書しないことを基準にしているため、授業のスピードが速く、理解しきれない。
- ・先生が PowerPoint など説明しているとき、今どこの説明やっているのかわからなくなる。
- ・単語のテストの時間が短かった。
- ・文法テストや単語テストの際、パソコンの場合は画面のスクロールに手間取ったりクリックに誤ったりなどでペンで書くよりも無駄に時間をかけてしまいギリギリになってしまったのでもう少し余裕が欲しかった。
- ・もう少しゆっくり日本語訳の解説をして欲しい。

- ・少しペースが速いです。
- ・ペースが速い時があり、書き込みなどが間に合わないときもあるが、止めるには至らないほどであると感じている。
- ・リスニング等音質が少し気になりました。
- ・英文を翻訳、または解説するスピードをもう少しゆっくりお願いしたい。
- ・ラグなどでリスニングが聴こえにくい時があった。
- ・英文の説明の時に色付きのところがなにを表しているのか説明だけでなく、書き込んであるほうがわかりやすいかなと思った。
- ・進むスピードが速い気がした。
- ・リスニングを行う際、unit の番号が流されるように言われるため、聞き逃すことが多い。そのため準備をしようにも出来ず、いつも遅れて探すことになる点。
- ・対面ではないため、対面でしか気付けない質問ができなかった。
- ・英文の説明などは音声のみでなくパソコン上で実際に文字に起こして説明してほしい。それが可能でなければ、teams の授業を録画し再度見直すことができるようにしてほしい。

改善してほしい点は、その内容から以下の5つに大別できるように思われる。

(13) ○「話すスピード（授業のスピード）が速い」

授業では、話すスピードに気をつけているつもりであったが、実際には速いと感じている学生が多くいて、反省している。今後は、『遅いかな』と感じるぐらいのスピードを心掛けたいと思う。

○「音質が悪い」

授業者所有のパソコンのスペックの問題もあろうが、通信環境が安定していないこともあり、今後のことも考えて、学校全体で検討する必要があるように思われる。

○「配布資料の様式が統一されていない」

多くの資料を「ファイル」にアップロードしているが、Word ファイルであったり、PDF ファイルであったりしているため、今後は PDF ファイルに統一してアップロードすることとしたい（前期期末試験用の文法テスト対策プリント、単語テスト対策プリントを Word

ファイルでアップロードしてあったが、PDF版を08/15にアップロードした)。

○「授業を録画してアップロードしてほしい」

授業を録画してはいけないという指示は出していないので、学生によっては、録画したり、スクリーンショットで保存したりしているので、必要であれば、各自録画して良い旨を明言(明示)することとしたい(録画をアップロードしてしまうとライブの授業を疎かにしたり、授業自体に出席しない可能性があり、そうしたリスクを回避したいと考えている)。

○「授業で使った PowerPoint 資料をアップロードしてほしい」

4年生に対しては、アンケート実施前に要望があり、授業で使った PowerPoint 資料をすでにアップロードしている。3年生に対しても、夏季休暇中に PowerPoint 資料をアップロードすることとする(08/15にアップロードした)。

③ オンライン授業(英語の授業)を受けてみて、不安に感じていることを自由に書いて下さい(特になければ、「特になし」と記入してください)。

(3M)

- ・他の人と比べられず自分の理解度が分からない。
- ・内容を理解しているか。
- ・2年の頃よりも単語の難易度も上がっているし、文法も複雑になってきて自分の知識だけで付いていけなくなったところがあって実力がついていると感じないこと。
- ・自分がどれくらいできているのか不安になることがある。
- ・聞き逃してしまう部分もあり、試験で分からなくならないか不安。
- ・オンライン授業でなくなったときについていけるか。
- ・先生の授業はわかりやすいのですが、どうしても自分が教室で授業を受けている時よりも多くを聴き逃しています。絶対的に周りと差がついているので、そこが本当に、本当に心配で仕方がありません。
- ・学校に行かないと強制力がないからか、すごい集中力が低下してしまいモチベーションが落ちてしまうことが多かったです。そのせいか復習が思うようにできず、自分が本当に授業内容を理解できているか不安になることもありました。

- ・リスニングが聞き取れるか心配です。
- ・テストの範囲が広いので、ちゃんと覚えられるか心配。
- ・後期からの授業についていけるか。
- ・リスニングができないので不安。
- ・一人での授業となるのでみんなに追い付けているかが不安になる。

(3E)

- ・授業内容を理解できているかということ。
- ・リスニングが不得意であるため、不安に感じている。
- ・他の教科の課題もあり、授業終了後の英語の復習、予習時間が十分に取れず、授業を理解できているのが不安に感じている。
- ・授業という感じがしないため、本当に学んでいるのか不安になります。
- ・教材の会話の要点がオンライン授業によりできないこと。
- ・正直に言って、授業中に遊んでしまうことがあり、集中できない。
- ・テストが心配。
- ・選択式の問題に解答するときに何となくで選んでしまう(英文を完璧に理解できない)。
- ・自身の理解度。
- ・慣れない環境で実際に遅れたりしたので、そのようなことが心配です。
- ・他の生徒の理解度がわからないので、自分がどのくらい理解できているかわからない。
- ・ついていけているのか不安です。
- ・テストでどのような問題が出題されるかわからない点。
- ・自分の理解度と他の人の理解度について。
- ・自分はちゃんと理解出来ているかどうか。

(3C)

- ・テストの範囲が広くなるのが厳しい。
- ・家での授業なので、緊張感がなくあまり集中出来ていないことが多いからテストが不安である。
- ・仕方ないとは思うけど、アプリが重くなって teams が落ちる時がある。テストの時にそうなるかもしれないので不安。
- ・習ったことが身に付いているのかどうか。
- ・授業中に周りの人がいないという不安がある点。
- ・タイミングが合わず進行するときがあり、授業内容が自分の中で飛んでしまうときがあること。

- ・英語を喋っていないので、コミュニケーション能力や発声の技術が学べていない点が不安。
- ・対面授業が再開した時に、ちゃんとついていけるかどうかということ。
- ・期末テストの範囲が広がるのでちゃんとできるか不安。
- ・授業についていけるか。
- ・ヘッドホンを利用したリスニング（耳元に音源がある状態）だったため、本番での離れた場所に音源がある状態のリスニングで上手く聞き取れない気がする。

(4M)

- ・リモートで学んだことが本当に身についているのか。
- ・全部不安、特に TOEIC。
- ・自分の理解度とほかのみんなの理解度がどのくらい違うかわからないところが不安です。
- ・総合的な勉強量の減少。
- ・共に学ぶことが減りモチベーションの低下。
- ・コミュニケーションの減少。
- ・ついていけているのかどうか。
- ・自分の発音が合っているのか分からない。
- ・他の人の進捗が見えにくいので、自分がついていけているのか不安。
- ・友達と勉強できないので、理解度がみんなに追いついていくか不安になることがある。
- ・テスト範囲が広がること。
- ・リスニングが不安。
- ・自分がちゃんとその単元を理解できているのかわからない

(4B)

- ・テストの範囲が広いと、点数が取れるか心配。
- ・自分は本当に授業についていけているのかわからない点。
- ・みんながどれくらい理解しているのかと、自分がちゃんと理解しているのかわからないこと。
- ・何をどこまで理解しなければいけないか、友達の状況が分からないのも相まって不安である。
- ・自分が理解出来ているかわからない。
- ・理解できているかどうか分からない。
- ・理解が対面形式よりできていない気がする。
- ・本当に自分のやっていることが正しいのかどうか。
- ・自分の英語能力があがっているのかわからない。
- ・元々英語が苦手なので、授業についていけるか不安。

不安に感じている点は、その内容から以下の4つに大別できると思われる。

(14)○「(他の学生に比べて)自分は英語力がついていないか」

リモート授業では、自分ひとりでの勉強となるので、無理からぬことであるが、対面授業でしっかり理解度を確保する授業を心掛けたいと思う。

○「対面授業についていけるか」

対面授業再開後の当初は、授業のペースをやや遅くして、学生が十分に理解できるように演習を増やした授業を行う。

○「音読や会話練習をやっていないので発音やコミュニケーション能力が弱くなっているのではないか」

対面授業再開後には、基本的には英語で授業を行い、発音（音読）練習や会話の練習を十分に行わせたいと思う。

○「(前期期末)テストが心配」

夏季休暇後に『傾向と対策』のプリント（例年は試験の2週間前に配布している）を「ファイル」にアップロードし、十分に試験対策ができるように配慮する（09/01にUPした）。

7. 学生の意見・感想

英語の遠隔授業に対する学生の意見・感想を列挙する。

(3M)

○私は、前期オンライン授業をしてみてまず思ったことは、私自身機械になれていないこともあり、クリックしただけで出席になる、という事が不安で本当に出席になっているのかなと思うことが多かった。だから、オンライン授業では連絡するなども双方向で確認できるようになるといいなと思いました。また、これまで私のクラスでは授業後に直接先生と1対1で質問をしている学生が多い印象がありました。しかしオンライン授業では、質問をすると全員に聞こえる、または、見られるといった事が起きてしまうので、そこも改善出来ればもっとよりよいものになっていくのではないかなとおもいました。また、オンライン授業になって、先生たちが学生に対して気を使ってくれているのを感じました。

○自宅の音響環境によってはろくな音質でリスニングを行え

ないかもしれない。自分もスピーカーを新調するまでは、ノイズが乗っていて聞き取りにくかった。やはり言語学習をオンラインで行うのは、どちらにも負担やストレスがかかるのだと思った。

○オンライン授業でいいこともあるけれど、やっぱり対面授業の方が学べることは多いように感じます。まだ先生と一度も生で対面したことがないので、早く学校が始まって元々の授業体制に戻ることを楽しみにしています。それまでは、オンライン授業よろしくお願いします。

○毎日遅れることなく授業に参加できてよかったが、授業内での問題の正答数が少なかったので集中力が欠けやすいところがよくなかったなと思った。また忘れていることも多くあるので復習をしっかりしていきたいと思う。後半の動画を利用した授業では動画を楽しみながら勉強ができました。しかし本場の発音を上手く聞き取ることは少し難しかったです。より自然な発音を上手く聞き取れるように今後の聞き取りに関してもしっかりと練習していきたいです。

○自分は英語が苦手なのでオンラインの授業に不安は多くありましたが楽しく授業を受けられたと思います。特に最後の授業はとても楽しめました。また、オンデマンド型の授業ではなく、リアルタイムでの授業なので授業を受けている自覚を持つことができたのでよかったと思います。オンライン授業では自分の気持ちの持ちようで理解度が大きく変わってしまうので難しいこともありましたが、苦手意識がなくなるよう努力したいと思います。

○英語のオンライン授業は、他の科目と比較してもスムーズに進めることができると思います。なぜならもともと英語は会話であり、リスニングや英文の羅列を見るものなので、スマホなどの情報媒体であれば、音声も出て且つ映像も出力できるので最適の勉強環境が英語の場合はあると思いました。更に、英語の映画の和訳考察などはスマホで、スクリーンに映し出すよりも分かりやすくなって良いと思いました。

○授業方法などはとてもよかった。授業自体はわかりやすかったし、解説なども丁寧にされていてよかった。ただ、家で1人で受けなければいけないというのが苦痛で集中力も続かなかった。この状況では仕方のないことかもしれないけれど対面授業が再開されてほしい。

○オンラインならではの好きな姿勢、格好で受けることで縛りが無くなったためかなり楽になったが対面授業時と違いそ

う場で直ぐに質問や、友人同士の質疑応答がしにくい感じがある。

○私がこの英語の授業を受けて一番いいなと思ったところは、映画や音楽から英語を学べるところだ。映画や音楽を使うことで楽しく英語を学ぶことができ、勉強に取り組みやすい。また、森先生が授業中に学生の準備を確認するチャットを打ち込み、そこに「いいね」を押すことで準備完了の程度を把握し、そのうえで授業を進めてくださることでおいいただけることがなく、しっかり授業に取り組むことができたので、とてもよかった。

○授業で出てきた単語でどれが重要なのかとかが分かりづらく今までで習ったもの全て覚えなければいけないのかと考えるとテストに向けて不安になりました。また単語のみならず授業の内容が頭に入っているかも心配です。

○ライオンキングやジュラシックパークなど知っているものの英語に触れられて楽しかった。知っている作品で流れが分かるため、リスニングなどの英語よりもさらに早い、なんとなくだ理解できた。日常会話程度のスピーキングはできるようになりたいので、今後も積極的に英語にふれていきたい。リスニングテストも難しかったので、夏休みの間にレベルアップしていきたい。

○英語の授業は、みんなでコミュニケーションをとりながら楽しく学ぶものなのに、それができなかったで少し残念に思います。後半の方にやった、映画を見たり、音楽を聞いたりして聞き取りをする学習はとても楽しく取り組むことができました。実際に歌うのも学校だと少し恥ずかしいから遠慮してしまうけど、家だったので思い切り歌うことができました。これもリモートの良いところだと思いました。

○他の授業よりも一足早く始められて、大きな混乱もなくここまでやってくることができたので、まずは先生に感謝したいです。たまに授業のスピードについていけないこともありましたが、90分フルで授業をしてくださる教科は数少なかったもので、よりいつも通りの授業のように臨むことができました。テストのことや、これからの授業の進め方など分からないことが多くあって、対面授業が始まってからも不安ですが、どうにか頑張っていきたいです。

○オンライン授業で良いと感じたことは、二つあった。一つは、授業中に、パワーポイントを使って解説していただけるので学校に行き、普段通りの授業を受けるのと変わらない感

じがしたこと。もう一つは、音声ファイルをダウンロードできるので自分の時間で発声の練習ができること。反対に、改善してほしいと感じたことは、アップロードされるファイルの名前がわかりにくいと感ずることがあるのでもう少しわかりやすくしてほしい。

○リスニングの時は音声聞こえないことなどは起きなかったが、映像を見る時に音声は聞こえていても、こちらのインターネットの影響で映像が止まっていたり、画面が暗くなったりしたが、映像を見る場合でも複数回映像を流していただけたので1回目に聞けなかったり、見られなかったりした部分を2回目以降に確認でき、とてもありがたかったです。○英語の前任の先生に比べて授業の進むペースが早く感じたが授業のプリントをファイルで上げてもらえて復習しやすかったです。

○一人なので、わからない部分を友達に聞くことができない。また自分が理解できなかったことが周りの人は理解できているのかどうか不安になることが多かった。森先生の授業を対面で受けたことがないのでわからないが、対面になったときについていけるかが心配。予習方法も他の人がどのようにやっているかがわからないので、自分のやり方が正しいかわからない。

○授業が始まって間もない頃は、どんな形で授業を行うのか分からなくて不安だったが、学校で行う授業と同じ形式で授業が行われたため、特に混乱もせず教科書の内容が理解できて、問題や音声ファイルも与えられているのでテストに向けての勉強もできてとても満足している。また、自分はリスニング問題が苦手で、自分で勉強するのも難しいので、授業でリスニング問題を取り扱ってくれるのはとてもありがたい。

○自分がリラックスすることのできる環境で授業を受けることができるので、勉強にとっても集中することができる。また、予習をすることで授業のなかで再度、復習しながら授業を受けることができるのでより理解を深めることができる。また、オンライン授業だと、学校に行くまでの時間、労力を省くことができ、その省くことのできた労力を授業に費やすことができる。最後に教室だとたまに先生の発言が聞き取れない場合があるが、オンライン授業だと、イヤホンをつけることで確実に聞き取ることができる。

○映画を英語で見て勉強したり、楽しく英語を学習できているので英語が身につくそうです。今回、単語テストやリスニ

ングテストを家で受けることになりましたが、一人で集中して受けることができたのでいいと思いました。授業の内容のことではないのですが、これから teams で資料や、プリントを配布することがあれば、PDF にしてもらえると自分でプリントアウトすることができるので嬉しいです。

○映画を見たり、音楽を聴いたり、単に文法の勉強をするだけでなく、海外の文化そのものに触れることが出来たのが面白かった。特に熟語や特別な表現については、英語圏の文化ならではの言い回しを感じてとても興味深く思えた。また、Two sides の教材を使って学習した回では、実際に討論を行ってみたいという気持ちも強くなり、自分が社会においてどのような立場で意見を持っているのかという確認にもなった。

○自分は、英語が苦手なので授業中の教科書の問題がなかなか解けなかったり、解けてもあっていることが少ないので大丈夫か心配になることもあるが、ファイルなどを見て復習をしっかりしていきたいと思った。

○リスニングテストが何を言っているのか全くわからない問題があつて難しいと感じた。映画の聞き取りで、分からない単語が多く、字幕があつても空欄を埋めるのがとても大変だった。ディスカッションは内容が理解しやすくわかりやすかった。

○授業中の進むスピードが適切だったので習っていることがすんなり頭に入っていった気がします。英文の和訳などの予習課題のおかげもあつて文章が比較的簡単に理解できたと思います。また、ジュラシックパークなどの海外の映画を見たり、歌を聴いたりなどによってリスニングなどの勉強も積極的にできたようなところも良かったと思います。しかし初めてのオンライン授業ということもあつてグループワークなどはあまりできなかった所以对面授業が始まったらそのようなことに積極的に取り組みたいです。

○学生の私語や環境音が入りづらいので、特にリスニングに集中しやすいと感じた。また、授業のスライドもパソコンの画面で鮮明に見ることができるので、本文の文法等のアンダーラインも追いやすく感じる。一方、受けられる授業のレベル（主にリスニングの音質、画面の大きさによる見やすさの違いなど）が学生の各々の環境に左右されてしまうのは、オンライン授業共通の弱点とはいえ、改善が必要だと思う。

○これは英語だけに言える話ではないと思うのですが、やはり、この状況に悪い意味で慣れてしまったな、と思います。

どうしても内容がほぼ自分の中に残っている気がしません。復習をしようにも、やる事が多くあまり時間もとれません。自分の時間の使い方の下手さに呆れています。先生の授業は分かりやすいし、「いいね」で確認を取ってくださるのがありがたいです。自分の問題を解く速さなどが分かって助かっています。

○他の先生の授業は大体対面授業の時と授業方法が変わったりしているけど、英語はそういったこともなくいつも通りに歌とかを行うので新鮮でした。黒板に虫食い部分の歌詞を書きに行くのが正しい答えじゃないといけないといったプレッシャーを少し感じていたのでそれがいい分、今のオンライン授業の方が気持ちを楽に授業を受けられます。それと時々あった先生の楽器演奏が聴けないのは少し残念ではあります。

○最初は自分も先生もオンラインで授業を行うということが初だったのでいろいろと不安があったが、下手に凝るより、普段どおりの授業をそのままオンラインで行ってくれる方がこちらとしてもありがたいため、授業形式が普段どおりの英語の授業はよかった。自分はリスニングが苦手なので、リスニングのテストの時に通信が悪くなったらどうしようと思ったが、そういったことはなく、問題なく回答できたため安心した。

○授業内容はとても面白くて、特に「It's a Wired World」は科学技術の歴史や経緯について深く学べるのがよかったです。また、後半の映画を使った授業も普通に鑑賞するときとは違い、声優の発音やイントネーションといった点から見られるので、これから海外映画を見るときも参考にしようと思いました。これをオンライン授業ではなく、学校での対面授業だともっと楽しいのだろうと少し残念です。

○初めて映画を使った授業を受けて、楽しいと感じました。映画を楽しみながら、英語のリスニングのトレーニングにもなると感じたのでとても面白かったです。自分もまた違う映画を見ていきたいです。英語の本文では、分からない事が出てくると復習などを忘れないようにしたいです。TOEICの勉強も同時に行えたのでこれから受ける TOEIC のためになると思うのでこれからはしっかりと勉強していきたい。英語の歌を上手になりたいと思いました。

○オンライン授業における利点は、以前は片道1時間以上かけて学校に通っていたが、その時間が無くなり時間を有効に使えるようになった点である。また、自室で一人で授業を受講できるため、集中して勉学に励むことが出来る点も利点で

ある。しかし、オンライン授業ならではの不便な点があり、それは回線の調子により授業中、時々音声途切れ単語を聞き逃すことがあるという点である。また、その聞き逃して分からなくなった所をいつもならば容易に友達や先生に聞き直す事が可能だが、遠隔ということもあり聞き直すのにも手間がかかるという不便さもある。

○英語のオンライン授業を受けて感じたことは、今まで受けてきた英語の授業と違ってアニメや映画を教材として使った授業は新鮮で楽しかったです。授業外でも映画や小説を楽しめるようになったらいいなと思いました。Formsでの試験は初めてでいつも以上に緊張して焦りに焦りました。解答はしやすかったです。回線が悪いのかリスニングが途切れたり、映像が重いのはオンライン授業の弊害だと感じました。また、先生の言葉などを聞き逃したときとかなどに、友達にすぐ確認できないのも辛かった。

○英語のオンライン授業では、教科書の問題を自分で解く時間と、答え合わせをする時間がしっかりと分かれていたため、よく理解することができた。また、問題の答えや教科書の本文などのパワーポイントがとてもみやすかった。リスニングの問題では、自分の家のWi-Fiの問題だと思うが、音声途切れることがあったので、上手く聞き取れないことがたまにあった。

○英語のオンライン授業は課題がなくて楽な反面、授業中の集中力を持続させるのが大変でした。先生の話あまり聞いていなかったり、途中で眠りそうになったりとあまり真面目に授業を受けられていなかったと思います。ですが、映画や洋楽を用いた授業は集中が途切れることなく最後まで楽しく聞くことができました。

○自宅で授業を受けられるので学校に行く手間や移動時間がかからないが自宅だと集中しきれなかったりするので全部が良いとは言いきれない。また、授業に必要なプリント等は対面授業と違い、配られるのではなく自分でプリントアウトしなければいけないので対面授業とは別の手間がかかる点もある。

○オンライン上で授業をするうえで、音声途切れてしまうことは仕方ないことだと思いますが、リスニング問題の途中で音声途切れなにか心配になりました。オンライン授業では、教科ごとにチャンネルが分けられていて、授業ごとに配布資料も分けられているため、復習しやすいと感じました。英語の授業では、資料のアップロードやお知らせなど、一言連絡があるため、わかりやすいと感じました。

○オンライン授業では音声が届くまで聞き取れなかったりすることがあり、またすぐにでも友達に質問できるわけでもなく不便なこともあったりした。また英語はもともと得意な教科というわけでもなかったり、この teams のアプリも初めて使ったりすることから最初はオンライン授業でやっていって大丈夫かなと不安に感じることもあったが、自分の部屋でやることにより学校よりリラックスして授業を受けることができたのでよかったと思う。

(3E)

○英語の授業は、教科書の内容を学ぶ上では何の不自由もなく自分のペースでリラックスして授業を受けることができるのでいいと思う。何か質問するときは画面越しということもあり質問しづらいと思う。仕方ないがたまに音声が届けなかったり、通信環境などの影響で授業を遮られることもあるのでその点が改善できるとさらにいい授業ができると思う。オンライン授業についてではないが、リスニングが苦手なので英語の歌や映画を聴いたり見たりして英語の会話を聴く耳を鍛えたいと思った。

○オンライン授業でオンデマンド式では無く、リアルタイムで授業をしている唯一の授業が英語であるが、割とリスニングと英文の解説で、パソコン画面の共有などを使用できるため、割と普段より良い授業になっているかも知れないと考えた。それはそれとして、英語教科に対するモチベーションが最近、尽きてきているため、軽く激励の言葉が欲しいと思っている。

○英語のオンライン授業を5月から今までやってきて思ったことは意外と大変だということです。毎回授業の予習をして印刷をすることが多いし授業自体も集中して聞いていないと分からなくなります。でも、やりがいはオンライン授業はあるし大変だけどそれだけ力がついていると思います。これからはオンライン授業が続くかもしれないのでしっかりこの休みの時間しっかりと復習しておきたいです。

○授業自体も自分のペースで取り組むことができ、とても満足しています。問題の答えの聞き忘れなども復習でき、良かったです。問題も先生が一つ一つ説明して下さったので、しっかり理解することができました。一回の授業で、一つのパートを学ぶペースなので、これからのテストがうまくできるかが心配です。今までこういう形の授業を受けたことがなかったので、新鮮さがあり集中できました。

○オンライン授業のおかげで、リラックスして授業を受けられることができるようになりました。しかし、集中力が90分も続きません。英語の授業に関して言うと、周りに誰もいないので発音の練習などが気軽に行えることはとても楽で単語の理解を深めることは対面の授業よりできたと思います。しかし、ネットの環境なのでたまに声が聞こえない時や途切れ途切れになり、何を言っているのかが分からないときがあり、そういう時に気軽に発言して質問することが難しかったです。

○リスニングのときにあまり聞き慣れなかったり、発音が頭の中で再生できない単語が出てくるとほぼ間違ってしまった。知っていても複数形のsの聞き逃しやスペルを間違ってしまうことがあるので気を付けて聞き逃しの無いようにしようと思った。また、TOEICのリスニングではPart2のような問題が特に苦手だと問題をしていて感じました。本番では、音声は1回きりなのでぱっぱと解けるように、英語のボキャブラリーを増やすべきだと思った。

○英語のオンライン授業に関して、ストレスが溜まるようなことや不安なことは全くなく、どこどこが悪いというような点はない。途中で画面が途切れたり、音声が一時的に聞こえなくなることがたまにあるが、それはこちら側のネット回線の問題でそこにストレスを感じることはない。学校での授業と違い、疲れがたまらないようなリラックスして授業を受けることができるのでとても良い。

○オンライン授業にすることによって、授業を受けている最中にわからなかったところも、復習を自分ですることが簡単にでき、とてもいいと思う。家なので、とても涼しくできてなお集中できる。英語は、特にわからないところはなかったが、一つ言うなら、テストの最初の40問の、15分はあまりにも早すぎたと思う。20分でもよかったのではないかなと思う。

○自分のペースで勉強ができるというのは、ものすごい利点だと思いますが、対面ではないため、パワポを使って分かりやすく解説してくださっていますが、授業を受けているという感じがなく、自分は勉強できているのかと物凄く不安になります。

○英語の授業では、発音やリスニングを重視した授業となっていて良いと思います。また、授業内容も教材に沿ったものになっており、予習がしやすい点も良いと思います。授業後に授業で使った教材、少テスト等を teams に投稿している点においても良いと思います。しかし、教材の会話を実際に

行うものでは、オンライン授業のためできないので浅い理解となってしまう点は少し不安な面もあります。

○これまでと違ってオンラインでの授業だったので、はじめは分からないことだらけで不安だったけど慣れてきてうまく対応できたのでよかったです。オンライン授業だったから自分のペースで勉強できたし、家での授業だったのでリラックスして授業を受けられたのが良かったです。今年の英語は、去年までと違って工業英語メインではなくなったので難しいと感じることもあるけれど今後も頑張って勉強していきたいです。

○自宅で授業を受けることができるので、リラックスして授業を受けることが出来て、快適だった。その反面、授業中に遊んでしまうことがあるので、学校にいる時と比べて、集中しにくかった。トイレに行きたくなった時に、すきを見て自由に行くことが出来るので、便利だった。前にリスニングで、ノイズでうまく聞き取れないことがあったけど、今は特に問題なく聞き取れるようになったので、安心した。リスニングはイヤホンで聞けるので、比較的聞き取りやすかった。

○自分はオンデマンドの授業だと課題を提出期限のギリギリまで貯めてしまうので、英語のように Teams でその時間にやるというのにはあっていました。最近の授業はライオンキングやジュラシックパークといった有名な映画を題材にした授業だったので、自分も興味を持てたし、だいたいの話の流れは知っていたのでより理解が深まったと思いました。

○オンライン授業なので、通信状況が悪いと授業を気持ちよく受けられなかったり、家に1人なので集中が切れてしまったりなどの問題はありますが、家において課題に追われる中での英語の授業は、ちょっとした気分転換になるので、これからもがんばって授業に臨もうと思う。ただ、音声が入っていないまま、授業がどんどん進んでしまうことが多々あるので、そこだけは改善してほしい。

○家には一応 Wi-Fi 環境があるが、なかなか繋がりにくい場合がある。その時はスマートフォンのモバイル通信で授業を受けたりしているため、通信量が少し心配になる。教科書の文を説明するところで、オンライン授業の序盤は書き込みを行いながらついていけていたけど、終盤から説明が早くなっていてついていくのが少しきつかった。

○オンライン授業では自分のペースで勉強できるのでそこはいい点だと思いますが、通信環境の悪い時は音声途切れたり聞こえなかったりしてしまうのでそこは悪い点だと思います。

私は視力が悪いので、学校で授業を受けると黒板が見えにくく、メガネをつけなければならないのですが、オンライン授業では、パソコンをみて勉強するので、メガネをつけなくてもいいのでとても楽です。

○オンライン授業だと、少し気持ちが締まらなかったり、内容が入りにくかったりすることがあるのであまりいいとは思っていません。英語の授業だけではなく、ほかの授業でも同様に感じています。実際、コロナの影響で時間がないにもかかわらず、どの授業でもトラブルが少なからず起きています。しかし、オンライン授業はあともう少しですので、気を引き締めて残りの授業を受けて、対面授業が始まってもしっかり頑張りたいと思っています。

○オンライン授業で授業を受けることにより、解説で分からなかった部分は写真を撮れば後から見直してしっかりと理解することができることは良い面である。しかし、友達と分からない部分を教え合ったりすることができないことが不便である。また、ネットの通信状況や機械の調子により授業が正常に進まないことがあったり、コメントをしても先生が気づかない場合がある。

○初めは、スライドで見やすくいいなと思っていました。でも、後半の方になっていくうちに、オンライン授業に慣れて普通に学校で授業を受けている時より、あまり集中できていないと感じるようになりました。三限目の時は、ご飯を食べていて授業に遅刻しそうになったり、寝てしまったりした時に、誰も注意してくれる友達がいなかったため、一回寝てしまうといつの間にか授業が終わっているなんてこともありました。なので、個人的には学校で授業を受けたいです。

○学校まで電車で行かなくていいので楽な部分もあるけど、声が途切れるときはわかりづらくなってしまったり、課題もいちいち印刷しないといけないのでめんどくさく感じてしまいます。また、パソコンを見ながら90分間1人で授業を受けているのでつまらないし、わからない問題があるときすぐに教えてもらえないことが不便だと感じました。課題の提出に関しては、提出箱に出すだけなので楽だと感じました。

○オンライン授業は多少、自分の進具合などが気になるが、自宅のネット環境が悪いわけでもないため、比較的快適に授業に取り組むことができています。しかし、対面と比べて緊張がないため、集中力が切れることが多少あった。

○オンライン授業は今までやったことがなかったため最初は

パソコンの操作やチームスの操作に戸惑うこともありました。使っていくうちに慣れていくことができたのでよかったです。家にいる分勉強するときとリラックスする時の切り替えが大変でした。そのため、授業中でも集中力が続かないという時もたまにありました。オンラインということもあり、少し気軽に受けることができるのでその点は良かったと感じます。ただ、先が見えなくて精神的には疲れることもありました。

○学校に行く必要がないので家でリラックスして受けられる点は、素晴らしいと思う。しかし、先生も生徒の表情が見られないので、理解度や授業についていけるかなどをなかなか把握できないので、大変だと思った。またテストでどのような問題が出題されるのかについては非常に不安に思っている。テストについて説明があればいいと思った。

○オンライン授業は、はじめての経験ではありましたが対面授業より比較的アドバンテージがあると個人的には思います。主なアドバンテージは上記でも記入したが、プレゼンシートが見やすい、音声聞き取りやすいという点があります。また、通学時間の節約にもなります。最後に、7月中旬頃からはじまった自主作成教材の洋画鑑賞は聞き取りは難しいものの、楽しく英語が学習でき自分も自主的に洋画を見ながら多くの英語に触れたいと思いました。

○教材をダウンロードしないとプリントアウトできないこと。後、自宅だと集中力が続かないので、オンデマンドの方が僕には合っていると思いました。

○今回このような形で授業を受けることになって最初は戸惑っていましたが、今はあんまり感じなくなりました。ですが最初の頃に比べて授業への集中力が下がっているのもわかりました。特にリスニングのテストの時は、周りの環境が全然違ったため、あまり耳に入ってきませんでした。でも、単語などを即座にスマホなどで調べられることはいいと思います。

○画面を約90分間見続けるということはとても大変だと感じました。目がとても疲れました。また、集中力が続かないと感じました。リスニングがとてもむずかしかったです。特にトイックの問題はとても難しかったです。また、教科書の穴埋めのリスニングも聞き取ることはできてもその単語を書くことができませんでした。単語のスペルが分かりませんでした。とても難しかったです。授業についていくのがとても大変でした。分からない単語も多く出てきて一つ一つ調べる

のに時間がかかりました。

○3番の質問にも書いた通り、音声面では不満に思うこともあるが、それ以外は特に問題なく授業を受けることが出来ている。英語だけではなく、たまにスマートフォンでは会議に参加のボタンが表示されず、パソコンを使わなければ会議に参加できないことがある。

○オンデマンドの先生がほとんどの中、こうしてオンラインで授業をしてくれるのは生活のリズムが崩れずにいるのでありがたいです。

○The English lesson is interesting. I learnt a lot of new information from the articles in the textbook. Besides, I can also improve my English vocabularies, grammar and listening skills. I am so grateful for having a helpful and kind teacher. I am not that really good in English grammar and vocabulary especially therefore learning through the exercises given by the teacher really helps me a lot.

(3C)

○オンライン授業は予習や復習がいっぱい出来るのはとても良い点だが先生とのやりとりがない為、先生の進むスピードが早く感じる。しかし、とても工夫して授業を行ってくださっていると感じる。

○先程も言ったように、オンラインではリラックスして授業を受けられる反面、怠けてしまっていることがあるので、自分は対面授業の方が好ましい。また、その面で、よく理解していないところもあるのでテストがとても不安である。答えを言う時は音声聞きづらいことがあるので口頭で言うよりパワーポイントで教えてくれるのはありがたい。

○英語を声に出したり、誰かと話したりすることはなかったけど、英文の意味や問題は理解することができたし、対面授業と特に変わりはないと思う。私は電子辞書を持っていないので、分からない単語の意味をすぐにスマホで調べることが出来たというのが個人的に良かった。あとリスニングでは、周りに人がいないので雑音がない状態でやりやすかった。

○学校に行く手間が省けるし、家にいることでリラックスした状態になれるのは良い点だと思ったが、だらけてしまったり、ペースが追い付けない時があったりするので学校で授業を受ける方が身に付くのかなと思った。しかし、発音の練習や歌を歌うなど人に聞かれると少し恥ずかしいと思うような

ことをするときにはオンラインで安心だなと思った。

○対面授業とあまり変わらない授業を受けられていると思う。リスニングや発音で少し不便な部分もあったが、声さえ届けば学習ができるのでいいと思った。ただ、オンライン授業では話し合うということができないのでそこだけが難点であった。

○英語の授業は、毎週やることが決まっていた授業が受けやすかったです。ひとつひとつに解説があり、より理解を深めることができました。授業後に、答えなどがTeamsにあげられていたので、書き逃したところを確認したり、復習したりできました。映画や音楽を使った授業では、私はリスニングが苦手なこともあり、英語の聞き取りがとても難しかったです。知っている映画や聞いたことがある音楽があつて楽しく学習できました。

○良い点でも書いたように、対面授業のような授業を受けられ、先生がスマホ等の小さい画面の端末でも見やすいようにと、文字を大きくしてくれてとても良かった。また、ちゃんと授業に集中できるのか、心配だったが、リラックス出来て、いつもより集中出来ていたと思う。

○数ヶ月間オンライン授業を受けてきて特に良かったと思った点は、自分のペースで勉強に励むことができた点である。自分は一度聞いただけではなかなか理解できないタイプなので何度も見直して勉強できることは非常に良かったと思った。しかし、英語では発音等の練習ができていなかったため、単語の読み方やイントネーションが十分に理解できなかった。また、オンライン授業だとあまり集中力が持たなかった。

○授業で扱う出典が映画なので、普段から洋画や洋楽を聞いている自分からすれば受けやすい授業ではありました。しかしながら、だからといって実際に自分の英語能力がよくなっているわけではないので、より一層自分が英語の授業に対して真剣に取り組んで行く必要があると思っています。あとこれは願望なのですが個人的に好きな映画の「Back to the Future」を授業で取り扱ってくれるとうれしいです。

○良かった点は、自宅でリラックスして授業を受けることができ、また、分からない単語とかもサッと調べることができた点である。一方、良くなかった点は、1人で勉強しているので対話する相手がいない点である。また、教科書の内容のミニテストなどができないので、短期記憶になってしまいきちんと身につけている感じがしない気がする。授業中の先生の

声の大きさや、進むスピードはちょうど良くて学びやすかった。

○予習が大変なところはあるが、森先生の授業は非常にわかりやすい。さらに、最後の方には映画や歌から英語を聞き取る勉強法など楽しい授業のイメージがある。森先生は最初は怖いイメージがあったが、息子さんのバンドを紹介したり、中学校の卒業式のボタンの話をしたりなど、結構面白く、だから非常に授業も面白くて、毎週木曜金曜が楽しみでした。これからもよろしくお願いいたします。

○よく見る映画などを用いているのがわかりやすく、日本語字幕と英語音声はいつもと同じなのでとても楽だと思う。

○自分のペースでいつでも授業の復習ができることはとてもいいと思います。しかし、クラスみんなで英文を読みあつたり、英語で質問し合ったり、班になってグループ活動をしたりとといった、本来対面授業で出来ていたはずのことが出来なくて悲しい気持ちもあります。9月から学校が再開したら難しいかもしれませんがそういったことをしたいと思いました。残り少ないオンライン授業も集中して頑張りたいと思います。

○リスニングの時、ときどき家か学校のどちらかの通信環境の影響で聞き取れなかったりとか、声のスピードが速くなったり遅くなったりするのでテストのとき心配でした。特に映画を見るときに動画が止まったりしてカクカクしています。あと、私は音痴なので日本語の曲を歌うのも下手なのに英語の曲を歌うとき、きちんと歌えるか心配です。

○最初はどんな感じになるか不安だったけれども最初の授業でしっかりとした授業をしてくださりオンラインでも大丈夫だと思いました。またチャットで出席確認があるので良かったです。またテキストの文量が多くて、ついていくのが大変だと感じました。一回一回の授業で英文読解、単語、リスニングがあり、とても満足しています。ただオンラインは友達が周りにいないため難しい問題を気軽に聞けないのがきつかったです。

○英語のオンライン授業を受けて、授業の進むペースが早いなど感じる時があったが、その分、授業についていけるようにするために予習を頑張ろうと思えた。今まで洋楽や洋画を使って英語を勉強するという授業はあまり受けたことがなかったので、ネイティブの英語を聞いて授業を受ける方が楽しいと思った。自分一人だと、発音の練習がおろそかになってしまうので、苦手なリスニングに慣れるためにも発音の練習を頑張りたいと思った。

○家なのでリラックスしながら授業することができました。授業もわかりやすかったですが、対面授業になった時に、授業についていけるか少し心配です。毎回の授業前の予習が少し大変でした。

○オンライン授業では、映画で楽しめるような授業であったり、大事なところをしっかりと伝えてくださっているの、よい授業を受けられていると思います。ただ、英語の授業は他の授業よりも、対面でやるのが大事だと思うので、発音や英語での会話等の練習ができていないことが少し心配です。前行われたテストでも、全然点数が取れなかったので心配しています。英語は苦手としている分野なので、がんばって取り組みたいと思います。

○対面授業と変わらず授業の内容を理解出来ているし最近の授業では映画が出てくることによって英語への関心が高まっていると思います。正解者は「いいね」を押すというのも自分が「いいね」を押せると気持ちいいし友達と共有している感じがしていいなと思いました。逆に「いいね」を押せなかった時はみんなは出来ているのだからと復習や解き直しをしようと思えて勉強力が高まっていいなと思います。

○全体的に色々なことに英語で触れられたのが良かったです。特に後半の授業は色々な名作映画を英語で見ることができてとても面白かったです。個人的なお願いですが私の好きなバックトゥーザフューチャーについても是非1度取り扱って欲しいです。よろしくお願いします。

○上記のリスニングの不安以外には特筆して不安なことなどもなく、概ね満足できている。

○対面授業とは違い、自室で受けている為集中力が続かず、同時に、内容に対する理解力も落ちている気がする。通信環境の問題なのかはわからないが、たまに音声、映像が途切れる為聞き取れない部分もあった。また、画面の切り替わりが早く、書き取れない部分も多いので、授業で使用されているスライドを teams に投稿して下さるとより助かると思った。

○オンライン授業なのでみんなと発音練習は難しいけど、自分の気が済むまで練習できるのでいいと思います。対面授業ではリスニング練習は授業の時にしかできないけど、今だと音声ファイルが Teams にアップされているので何回もリスニング練習をできるのがいいと思います。以前、先生のマイクがオフになって音声がかえれないときがありましたが、家の回線の問題で私だけが聞こえてないのか、それとも全体で

聞こえていないのかわからなくて、なかなかチャットで言い出せませんでした。

○オンライン授業を通して自分の弱さが身にしみました。朝にホームルームがあった後に一限目の授業があります。ほとんどの教科でも同じなのですが、一限目ということもあり、頭が回転せずに睡眠欲に負けて何度か寝てしまったことがあります。人間は環境に適応しない生き物です。その代わりに何かしらの知恵を使ってその環境を乗り越えます。しかし僕はその知恵を使わなかった。これは僕の弱さ自身が招きました。しかしながら環境のせいではないとは一概にも言えません。恥ずかしながら僕みたいな人間が一定数いないとはとても言えません。よってオンライン授業は今後推奨しません。僕は対面授業がいいです。

○初めはオンライン授業は集中出来なさそうだし、あまり良くないかなとマイナスイメージを持っていましたが今はオンライン授業で良かったなと思っています。普通の授業だと遠い席からだと先生の文字が見えづらいときがあったけど、オンライン授業だと自分だけの黒板みたいで見やすくてよかったです。また、リスニングの音が自分のちょうどいい音量に調整できたのがよかったです。

○オンライン授業は楽ですが、普段の授業とは違ってあまり集中できない感じがしました。英語のことに関して言うと、文法も単語もこの前の中間テストに含まれると書いてあったテストで全然出来なかったです。小テストの点数に含まれるのだらうと思って取り組んでいたのが甘い気持ちになっていました。最初から中間テストの点数に含まれるって考えて取り組んでいれば良かったなと思いました。

○集中力が続かなかったり、ずっと画面を見ているため目が疲れるといった点以外は、学校まで行かなくて良い分通常の授業よりも良いなと思いました。しかし、スマホで teams を使っているからなのかも知れませんが、会議に入室する表示が出てこず入室できなかったり、アプリの起動が妙に遅く、入室が遅れたりするトラブルもあったため、そういう点においては、対面授業が良いなと思いました。

○私は英語が苦手なので詳しく解説して下さいよく理解出来ました。英文が長すぎて途中で集中力が切れてしまいます。日本語訳はとても大変でした。たまにリスニングにノイズが入り聞き取れない部分がありました。テストは難しかったです。

○本文や問題の答えなどの文字が大きく映し出されているの

で、見る側としてはとても見やすくありがたいです。しかし、通信の影響なのか先生の声やリスニングテストの音声、映像の音声などが時々途切れることがあります。オンライン授業をする以上起きてしまうことなのかもしれませんが、心配です。また、クラスの人々と同じ教室で受けている訳ではないので、自分だけ授業についていけないかも、などの不安も少し感じています。

○授業前に予習を行えば内容は理解できるものがほとんどで、新しい表現や単語も丁寧に教えてくださるので充実しています。教科書の問題を解く時間も多くあり、そのあとの解説もわかりやすく丁寧にしてくださるので間違っているのもちゃんと直しができ、その後の復習も行いやすいです。オンライン授業で一番丁寧にわかりやすいのが英語だなと思っているので、対面もとても楽しみです！

○オンライン授業では集中できなかったり授業に追いつけなかったりして授業が身についていると感じるのは難しいけど、家から出ずに授業を受けられることに関しては良いと思った。オンライン授業で英語を喋る事が無いので英語力がついていると感じられないと思った。

○オンライン授業は学校に登校する時間は節約できるが、集中力が続かないためちゃんと学習できているか自分でも不安になる。また、自分が出席できているかどうか自分では分からないので欠席超過にならないか不安である。

○以前の前期中間試験はメールアドレスとパスワードを要求されたり、通信環境が悪く開けなかったため回答時間が大幅にロスしてしまったので公平ではないのではと感じた。それ以外は特にないが、休校明けのテストが不安である。

○教科書の英文は、長くて分からない単語が沢山あって自分では翻訳しにくい部分が多くありますが、授業で翻訳してくださるしプリントもアップしてくださるので、授業後に英文を理解することができるので英語をより学ぶことができました。リスニングもあるので、より英語力をつけることができました。ありがとうございます。

○英語をオンライン授業で受けて、あまりついていけないということはなかったのが良かった。あとからファイルを見て復習できるのもいいなと思った。リスニングがあまり上達しないので、繰り返し練習したい。スピーキングがなかったので、会話が苦手な私にとっては変に気負わずにすることが出来て良かった。しかし、話すことは慣れていないため練習は

したいと思う。

○先生がテキストに出ている文法や語彙などを詳しく説明していたのがとてもよかったと思います。わからなくて困ったことはなかったです。

(4M)

○授業の雰囲気は2年生のころ対面で行っていたものとあまり変わらず、馴染みやすいと感じた。また、問題の解説なども丁寧なので理解が深められていると思う。

○今までの学習環境ではない状態で、初めは焦りがありましたが、最近では慣れてきました。分からないところが、見直しの動画により理解することができ、対面よりもよい点だと思います。ただ、対面だと周りに話せる友達がいたりして、その点ではデメリットになります。ただ、内容を理解するという点では、今のところ大きな不満はありません。

○オンラインでの英語の授業はほとんど学校でやっている授業と変わりなく感じる事ができました。特に授業で書ききれなかった所は後でファイルの中から確認することができ、とても良かったです。また、通学に1時間以上かかる私にとって移動時間が無いことは最大のメリットです。しかし、オンラインでは対面授業のような緊張感は無く途中で集中力が欠けてぼーっとしてしまう事がありました。

○初めはどうなる事やらと不安ではあったが、いざ始まってみると順応するのにそこまで時間もかからず、自分が思っていた以上にこの授業形態が自分向きであることがわかった。

○音声もはっきりと聞き取る事が出来るし、パワーポイント、教科書本文の重要な箇所も対面式での授業のように、しっかりと把握する事ができた。Formsを使用した、文法・単語・リスニングテストも、普段のテストと変わらず受験することができたと思う。リスニングの音声も、稀に雑な音になって聞き取りにくい事もあったが、全体を通してみればしっかりと出来たのではないかと、私は思います。

○普段オンラインで授業している感じでは問題はないです。リスニングの音質の具合により聞き取りにくくなるとやり辛さがあります。

○他の教科のオンライン授業よりも、充実した内容や反応のしやすさ(いいね)など、ほぼ対面式と同じような感覚で授業が進んでいてとても良かったです。

○前述しましたが問題は自分のペースで解けるのですが、肝心の本文解説があまり理解できていないのが現状です。それ

以前に予習ができていないものもありますが、例年の理解度としては低いかと思います。みんなそうだと思うのですが、英語が今でも後回しになっていると思います。

○学校での対面授業ならば、教科書の重要箇所の下線を引く際に聞き逃してしまうと友達に聞くなどする必要があったがオンライン授業ならばその必要がないため時間が節約できる。英語以外の科目では授業をレコーディングしているため、回線が不安定になり先生の話の聞き逃してしまった際に授業後に確認できるのが良かったです。レコーディングを英語の授業でもしていただくと授業の復習をより有意義なものにすることが出来たのではないかと思います。

○単語テストや文法テストの資料がアップされたり消されたりしたときは少し戸惑いましたが、それ以外は授業の進行方法がいつもとあまり変わらないため、対面授業とあまり変わらない感じで授業を受けることができました。リスニングも基本的に音声は聞き取りやすかったです。ただ、自分の理解度がどの位置にあるのかわからないところが大きな不安になっています。

○スクリーンに映して教科書を進めていくので、音声聞き取れなくても、要点が分かるので良いと思いました。また、教科書だけでなく、映画を使って英語の勉強ができるということが分かったので、自主的に英語字幕で映画を見るようにしようと思いました。

○英語のオンライン授業は、他の科目と違って受講しやすかったです。既に企業で英語のオンライン授業を提供するビジネスがあることにも納得しました。特に今回やった、映画を見て、日本語訳をみて、英語を聞いて、英語の字幕を見て学習するというやり方が、一番理解しやすかったです。色んな単語や言い回しが、それをしてただけで凄く理解が深まりました。自分でもやってみようと思いました。

○スライドをプロジェクターで見るよりもPCの画面で見る方が、はっきりと映って見やすい。下線を教科書に書けなかった場合でも、録画したものを後から再生できるので後で書くことができる。録画を再生できるので教科書の問やリスニングも書き逃しても後から書くことができて便利である。授業の音量も自分の手元で調節できるので自分に最適な音量に出来て聞き取りやすい。視力が良くなくても画面が目にあるのでよく見える。

○何回も授業を見直せるところがとても良いと思いました。

パワーポイントのデータ公開は対面授業が始まっても行っていたほしいです。

○普段の授業と形式があまり変わっていなかったのととてもやりやすかったです。見逃したところのスライドがファイルから見るので後から修正や復習ができて良かったです。私は小テストのリスニングではあまり通信は途切れなかったですが、普通の授業時に何度か途切れることがあったので心配でしたが、無事テストが受けられたので良かったです。自粛期間中、授業を作っていただきありがとうございました。

○森先生の授業は2年生の時に受けていて、もともと授業形式がパワーポイントを使った教科書の内容の学習だったので、オンラインになってもあまり授業の感じは変わらなかった。一人なので、声は出しやすかった。

○先生が対応してくださっているためか、オンラインでも不自由なく受講出来ていると感じる。また、単語などインターネットを用いる検索がいつでも出来る点などオンラインの方が優れている点も多いと思った。もし、オンライン授業が延長されても英語に関しては心配ない。

○通信環境が悪かったり、メモをしていたりして音声聞き取れなかった。そういう時にレコーディングがされていないため、2度とその場所を振り返ることが出来ないで改善してほしい。また、リスニング中に通信環境が悪くなることもあった。そういう時は手も足も出ず、ただ座っていることしか出来なかった。リスニングを個人個人で復習出来るようなシステムがあると良いと思った。また、解説を聞いたら、それきりで終わってしまうため理解できずに終わってしまうことが多い。

○オンライン授業になって最初は少し不安もありましたが、すぐに慣れました。教科書の正しい和訳をファイルにまとめてくださったことがとてもありがたかったです。コロナウイルスの感染拡大が止まらないので、後期もオンライン授業で良いと思います。

○1時間半の中でやるのが教科書の内容とTOEICのリスニング練習だけだったが目安の時間がいつも決まっていた気持ちの切り替えがしやすかった。他のオンライン授業よりも集中力が持続していたような気がした。

○あまり学校で行っている授業と変わりがなくて学生側からしてもとてもやりやすかったと感じます。前期中間テストでも、時間にあった問題数で事前にしっかりと勉強することが

できました。

○森貞先生のおかげでオンライン授業でも普通の授業と変わりなく学習できています。和訳や問い、リスニングを問題なく学習出来ていて不満や不安はないです。授業はとても満足なのですが、テストは少し改善して欲しいです。文法のテストの時間は少し短いかなと感じました。リスニングテストは家庭の通信環境の調子にも左右されるので問題数を少なくして2回ではなく3回繰り返して欲しいです。今後も続けていとおもいます。

○対面授業と比べて遜色のない理解を得られました。

○回線が悪くリスニングの音が途切れてほとんど聞き取れず小テストで点が伸びなかったのが悔しい。

○オンラインでの英語の授業は大講義室でやっていた頃とは多少融通が効かないものの、ほとんど普段通りの授業が出来ており、良かったと思う。授業でやった分の英文や答えなどを残してくれており、あとで確認が出来て良かった。

○基本的には今までと変わらず授業を受けられたが、スピーキングができなかったりリスニングがしづらかったのが少し不便だった。またコロナが流行ってきて後期もオンライン授業になる可能性もあるが、慣れてきてはいるのでどうなっても頑張りたい。

○多少の不安が残るものの、教科書の本文等の解説は対面の授業とほとんど変わらないクオリティで十分満足しています。

○2年生の頃の英語の対面授業とほとんど変わらない感じで、オンラインでも授業が受けられているので満足している。むしろ、資料ファイルのダウンロードができるので、こちらの方が自分的に嬉しい。ただ、不慣れなオンラインで一気に3つのテストを受けるのは厳しいと感じる部分もあった。また、期末テストの範囲が広がるので、不安が残る等のデメリットがあると思う。

○自分の部屋で受けることができるので学校で受けるのに比べて負担は少なかったのですが、途中で途切れ途切れになって聞き取れなかったり急に飛んでわからなかったりしたこともあり、自分がちゃんと理解できているのか確認できないところだけが不安ではありますが、他は大丈夫です。

○毎週、朝やることで生活リズムが戻り、勉強することができました。

(4B)

○オンライン授業が始まった時はちゃんと集中して授業を受

けられないのではないかと不安でした。また、授業を聞いてもしっかり理解することができないのではないかとという不安もありました。でも、先生が丁寧に教えてくれることもあり、今はこれといった不安もなく授業を受けることができています。

○家でリラックスして授業に取り組めたり、わからない単語や使い方があったらすぐに調べられたりするので、授業がつらいことはなかったです。しかし、授業のスピードが僕には速く、追いつくのが精一杯でした。テストの範囲も結構広いと思うので、復習してテストに備えようと思います。

○自分の慣れた環境で授業を受けることで少しだらけてしまうけど、リスニングは教室で聞くよりも聞きやすいのでオンライン授業も悪くはないと思いました。でも、英語は友達とコミュニケーションをとるために対面で授業を受けた方がいいのかなとも思いました。

○私は、周りの人をよく気にしてしまうところがありますが、それが逆に私の刺激になっていて、周りのみんなが理解していて自分ができていなかったら焦るし、その焦りがあるからこそ今までは、授業終わりにわかるまで友達や先生に教えてもらえたりしていましたが、みんながどれくらい理解しているのかわからないため、刺激を受けないのと、そもそも自分がちゃんと理解しているかすら、わからなかったり、オンラインだと、家にいるため誘惑が多すぎてすごいつらく、集中できないです。

○家での授業ということで、生活習慣の乱れから授業を真面目に受けられないことが多々あった。今また感染者が増える中で、英語等の集中講義をオンラインにするのは、厳しいと思う。学校が始まり今までの生活習慣に戻せるようにしたい。他の教科の課題の量も多すぎて、さらに授業の理解は、正直に言えばしんどい・つらいということ、時には怒りとなることもありました。授業を受けたくないと思うことも多々ありつらかったです。

○初めてのオンライン授業で初めて授業を受ける先生だったので、どんな授業になるのか不安でしたが、スライドや重要などが分かりやすく、英語が苦手な私でも文脈をまあまあつかむことができました。これから対面授業になるとまたやり方が変わると思うので、テストに向けて夏休みに勉強を頑張りたいです。

○授業のあるなしの連絡を頂けない先生もいる中で、毎週充実した内容の授業を行ってくださりありがとうございます。

正直、今まで受けたことのない先生だから英語のオンライン授業はより受け入れやすかったと感じています。今後もよろしくお願いします。

○後から見直したり、復習がしやすいと感じました。また教室と違いざわついているということがなかったので個人的には今までよりやりやすかったです。

○オンライン授業は全て自宅のできるので時間を有効に使えていいと思いました。しかし、1人で行っているため、友達がどれほど理解をしていて、自分はどれほど理解出来ていないかなどが分からないので、少し不安になります。クラスみんなで授業を受けられないのは寂しいです。

○初めてのオンライン授業で、どの科目に関しても、回線が途切れないかハラハラしていました。特に英語とドイツ語は、一度回線が切れると、追いつけなくなる事が少々ありました。ドイツ語は、録画されていて、何度も steams で見直せたので助かりました。しかし、英語では、録画されていなく、見直す事ができないため、リスニングテストの時は回線が切れないよう願って、いつも授業に臨みました。英語の授業の内容に関しては、教科書が幸いにも全体的に英文が英語の基礎になるような文ばかりで、易しい教科書だったので、回線が途中で悪くなくても、すぐに追いつけたところが良かったなと感じました。前期の半年間、楽しい授業をありがとうございました。

○内容自体はわかりやすいです。ですが、もう少し授業を進めるスピードを落として欲しいです。教科書 46 ページの Let's Try をあまり理解できていないので、解説をお願いしたいです。

○黒板の広い範囲にわたって書かれることなく、スライド一枚一枚で解説してくださっていたので、メモはしやすかったです。ただ、上の欄の回答の通り通信環境の問題などによってラグが発生してリスニングや単語の発音などが聞き取りづらかったです。また、先生が代わったことによって授業についていけないか心配しましたが、ギリギリなんとかなっているのが不安を拭き切った訳ではないですが、後期も頑張ってやっていこうと思います。

○自分のペースで勉強できるようになった。実際に、わかるところは聞き流すだけで、わからないところは動画を止めたり、音声をミュートにしたりして勉強できる。また、対面授業の場合 90 分まるまる使う場合が多い日が、オンライン授業になってから少し時間が短くなるので良い。

○初めてのオンライン授業で、集中力がだんだん持たなく

なったこともあったけど、授業はスムーズに進んでいて困ることはなかったです。英単語と英文法を勉強しようと思いました。テスト範囲がひろくなり、不安はありますが頑張らないといけないなと思いました。最後の洋画を使った教材や、歌の歌詞の授業は楽しくできたので良かったです。

○週で最初の授業が英語の授業でしたが、あまり集中できなかったというのが正直なところ。ネット環境等が不安定になると、先生の話がうまく聞き取れなかったり、リスニングかできなくなることも多々ありました。また、進むスピードが速く感じたので、もう少し学生に合わせたスピードにして頂けると嬉しいです。

○ストレスなく、授業に臨んでいます。解説もわかりやすく、不満はありません。

○遠隔授業でも英語は対面授業と同じ感覚で受けられて、負担が少ないように思う。遠隔授業が始まってから、普段は課題の少ない授業でも毎週多くの課題が出るようになって大変だったが、英語は変わらず、日本語訳とワークを怠らなければ十分過ごせるようで安心した。4B のクラスメイトは基本的に連絡等を面倒臭がり、主観で特定が難しい、特定されても指摘されないと思ったなら先生からやれと言われてもやらないので、性分を加味すれば授業中の確認に「いいね」を押さないのはある意味仕方がないと思った。

○自分自身オンライン授業は初めてでした。わからないことも多かったですが、先生が頑張ってくれたおかげで勉強することができました。早く対面授業になることを願っています。

○英語の授業では、予習のときに誤って理解していた語句が授業のときに正しい意味で理解出来ることが出来て良かった。また、はっきりしていなかった発音もまとめて発音練習があるので正しく理解することが出来て良かった。しかし、文法の意味などの部分で先生が説明したところが、対面式の授業のときのように黒板に残らないため、聞き逃した部分などが分からない事があるので、文法もしっかり理解して授業に臨むことが必要だと感じました。

○英語の授業は他の授業と比べ遅延も少なく、スムーズに授業を受けられたと感じています。

○内容も安定して受けることが出来た為、遠隔授業としてはそこそこまとめた授業だったと思っています。

○初めは、家で勉強ということに抵抗を感じていましたが、実際やってみると学校でやるよりは理解度は下がるのかなと

思いましたが、やりやすさを感じました。授業内容も説明がわかりやすくとても満足してできています。勉強の進め方など少し不安なところはありますが、今回を機に家庭学習のやり方を自分自身で確立していけるのかなということに期待も抱えています。授業も今のところは理解できているので、不安はあまりありません。対面授業になったときにどうなるかという不安だけはあります。

○問題を解く時間と教材を準備する時間を十分にとってもらえていたから余裕を持って先生の話聞くことができて話の内容がしっかりと入ってきた。答え合わせもゆっくりやってくれていたから間違っていて直すところがあってもきちんと直してから次の問題の答え合わせをすることができてよかった。映像を見る授業はたまに映像が途切れて聞き取れないところがあったが、何度も再生してもらっていたので聞き取れなかったところも聞き直すことができてよかった。

○ディズニーが好きなので、ライオンキングの授業では、1番集中して取り組めてとても楽しかったです。

○はじめは慣れないことばかりで苦勞したが、最近では慣れてしっかりと学習できていると思う。しかし、通信環境が悪く、たまに音が途切れてしまい授業を聞き逃してしまうことがある。またそれにより、授業に追いつくことが困難になることがたまにある。リスニングに関してはとてもよく学習できていると感じる。英語の授業は好きである。しかし後期もオンラインになってしまうのだけはごめんだ。

○学校がないので、環境的には楽ですが、ただ聴いているだけで頭に入っているか分からないので、テストが不安です。習った範囲が広すぎるので、全部期末テストにできるときついで、範囲をせまくしてほしいです。テスト前の、集中面接授業で今までの範囲を全部思い出して理解するのは難しいと思うので、何か対処してほしいです。

5. おわりに

本稿では、今年度初めて実施した英語の遠隔授業についての実践報告を行った。2節では、担当クラス（前期時間割）と使用テキストに関する情報を示した。3節では、前期授業進捗計画（実施済み）を時系列で示した。4節では、授業方法および授業内容について述べた。5節では、前期中間テストについて述べた。6節では、学生アンケートの結果を示し、

「改善してほしい点」、「不安に思っている点」をその内容からそれぞれ、5項目、4項目に大別し、対応策（対応済みを含む）を提示した。7節では、英語の遠隔授業に対する学生の意見・感想を列挙した。

初めてのことで、多くの失敗を重ねながらも、ある水準を保ちながら授業を行うことができたと自負しているが、今後の新型コロナウイルス感染の状況次第では、対面授業再開の延期や、対面授業再開後に再び遠隔授業に戻ることも十分に考えられる。今回の遠隔授業期間における授業の反省点を踏まえ、より良い遠隔授業の在り方を模索し、今後の実践（授業改善）につなげていきたいと考えている。

〈謝辞〉

創造教育開発センター長の長水壽寛先生には、Teamsにおけるチームの作成に関して有益なご助言をいただきました。また、数学科の山田哲也先生には、Teamsの運用に関して有益なご助言をいただきました。さらに、英語科の藤田卓郎先生には、Formsでのクイズやテストの作成・運用に関して有益なご助言をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

主要参考文献

- 小池浩子（2002）「遠隔授業の抱える課題と効果的授業方法－教員のコミュニケーション能力の役割」『信州大学教育学部紀要』（105），85－96.
- 篠原正典（2016）「通信教育課程の学生の現状と抱える課題」『佛教大学教育学部学会紀要』（15），1－16.
- 中林幸子・澤 恩嬉（2013）「大学教育における遠隔授業の目的とその実態」『東北文教大学東北文教大学短期大学部教育研究』（4），43－51.
- 布施 泉・岡部成玄（2015）「双方向遠隔授業の教育学習環境」『高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習』（22），75－81，北海道大学高等教育推進機構.
- 成美堂ホームページ URL：<https://www.seibido.co.jp/np/index.html>
- 南雲堂ホームページ URL：<https://www.nanun-do.co.jp/>

を貫徹するために、不死の薬や思い出の文を焼くとする説を掲げており、そうした見解が広く受け入れられているようである。さらに鈴木日出男は「人間としての一種の居直り」「人間の本性を証しだてる行為」（『竹取物語』の異郷と現実——語りの眼『国語通信』二四八、一九八四年九月）と述べ、「人間」として生きんとする帝の強い意志を読み取る。

⑩

松野彩『つつほ物語と平安貴族生活——史実と虚構の織りなす世界』（二〇二五
新典社）第二部「皇妃」（初出：二〇〇五年二月）

もちろん、そこから即座に『竹取物語』の帝に『古事記』、あるいは『日本書紀』が影響したと断言できるかどうかは『竹取物語』成立時にそれらの先行物語がどれだけ流通していたかと絡んで一筋縄ではないかない問題をはらんでいる。しかし、『竹取物語』に垣間見られる博学にして広範な知識から察すれば、当然、それら先行物語を既に作者は読んで自家葉籠中の物としており、そこに描かれた強い帝、行動する帝を一定程度踏まえて、新たな帝を造型したと考えることができるのではないだろうか。

と同時に、『竹取物語』の帝には中国幻想文学に酔いしれた天武朝、天武帝のイメージも重ねあわされていた。そもそも『古事記』『日本書紀』という書物自体が中国を意識し、中国に少しでも対抗するべく、天武朝期に作られた書物であったわけだが、彼我に圧倒的な国力の差があることは当時の官人たちは知らぬものではなかったはずである。そのような時代の空気が例えば『懷風藻』に見られる仙女を呆然と見送る帝を生み、そしてその『懷風藻』を始めとする漢文の文学が（中国幻想文学に加えて、かぐや姫にプラトニックラブを強いられる（あるいは進んで自己に強いる）『竹取物語』の帝造型に大きく影響を与えたのであった。

そして、そうして生み出された『竹取物語』の帝が、今度は『うつほ物語』の朱雀帝、『源氏物語』の桐壺帝に大きく影響を与えていることも見えてきた。『うつほ物語』では、朱雀帝の「かぐや姫」への恋が俊蔭女との恋、そして俊蔭一族の栄華という大団円を導き、『源氏物語』では桐壺帝の「かぐや姫」への恋が光源氏という物語の主人公を生み、それにスポットライトを当てていく流れを作り出していた。物語の根幹にかかわる部分として『竹取物語』の帝が関与していたことが立証できたと考える。

『古事記』から『懷風藻』を経由して『竹取物語』の帝が造型され、それが『うつほ物語』、そして『源氏物語』へと受け継がれていく。目の荒い論証となっていた部分も多いかと思う。大方のご批正を乞いたい。

【注】

- (1) 小嶋菜温子『かぐや姫幻想』（一九九五 森話社）
- (2) 保立道久『かぐや姫と王権神話——『竹取物語』・天皇・火山神話』（二〇一〇

洋泉社）、同氏『物語の中世』（二〇一三 講談社学術文庫 第一章『竹取物語』と王権神話——五節舞姫の幻想』

- (3) 三浦佑之『日本古代文学入門』（二〇〇六 幻冬舎）第一章「異界を旅する」

- (4) 保立道久『かぐや姫と王権神話——『竹取物語』・天皇・火山神話』（二〇一〇 洋泉社）第三章「天武天皇と「脱神話化」する国家」

- (5) 『日本書紀』では非常に残酷な天皇として描かれており、暴虐な「強さ」がさらにクローズアップされている。本稿で取り上げた『古事記』の逸話は『日本書紀』には載っていないが、代わりに童女君という女官を一夜に七度も召し、一夜で彼女を妊娠させたという性欲の激しさを窺わせる記事が載る。七度も抱かれた童女君が子を孕んでも、雄略は物部目大連が注進するまで、その子を認知することはない。「強い帝」と「弄ばれる女」という構図は『日本書紀』においても相当程度共通していると考えられる。

- (6) 奈良県北葛城郡に讃岐神社という神社があり、翁の名「讃岐の造」と絡んで、特に大和国のこの辺りが『竹取物語』の舞台と考えられる。保立道久は前掲書「かぐや姫と王権神話——『竹取物語』・天皇・火山神話」において広瀬神社（奈良県北葛城郡）の大忌祭に奉仕する少女がかぐや姫の原型だと説くが、広瀬神社にしても大和国である。奈良市内から直線距離で二〇キロほど南の辺り（現在の桜井市、橿原市、大和高田市、北葛城郡一帯）が雄略天皇時代の朝廷の地盤であったかと思われるが、いわば『竹取物語』はその地盤で生み出された物語だったと考えておきたい。

- (7) 保立道久『物語の中世』（二〇一三 講談社学術文庫）第一章『竹取物語』と王権神話——五節舞姫の幻想』では、強制的に天皇に召し出されて舞を披露させられ、慰み者にされる五節の舞姫たちの苦しみや葛藤が『竹取物語』にも影を落としていると説くが、非常に興味深い指摘であろう。

- (8) 小嶋菜温子『かぐや姫幻想』（一九九五 森話社）Ⅲ—3「祭祀のなかの「つはもの」たち」

- (9) 例えば『新編全集』の頭注は、帝は「宿世に克てない人間の代表として描かれている」（七七頁）として、「宿世に克てない人間」の生を、そして「失われた愛」

帝は出仕していた上達部たちに、俊蔭女の任官を諮っていく。上達部たちは、不審に思ったが、帝の命令であればと賛同していく。

もちろん、尚侍任官というのは公的なものであり、上達部たちに諮るのは当然のことだろう。その点で、わざわざ諮る必要のない諮問をし、ある種の「儀式」を行った『竹取物語』の帝とは異なる面もある。しかし、自己の力が意味をなさない（失恋という）事態に接した帝が、その傷を癒すべく、上達部に対して改めて自己の力を再確認しようとしている点、相似するものがある。権力は行使することで初めて権力たりうるのである。その観点から考えれば、『竹取物語』の帝と『うつほ物語』の朱雀帝はつながってくるがあると考えられよう。

帝の頭には、当然、自分が『竹取物語』の帝であるという意識が芽生えている。

「天下に、かく急ぐ心ざしの固くありとも、里にものし給はむに、はた、えものせじを、ここにもものし給はばなむよかるべき。『やがても候らひ給へ』と聞こえむとすれど、さまざまに、すすしきことなむ、この月にはある。十五夜に、必ず御迎へをせむ。『この調べを、かかる言の違はぬほどに、必ず、十五夜に』と思ほしたれ」。尚侍、「それは、かぐや姫こそ候ふべかなれ」。上、「ここには、玉の枝贈りて候はむかし」。尚侍、「子安貝は、近く候はむかし」。(四三七頁)

帝は退出が近づいた俊蔭女に対して「十五夜に必ず迎えに行こう」と言うが、俊蔭女に「それはかぐや姫がお仕えることになるでしょう」とからかわれている。つまり帝は、生身の女であるはずの俊蔭女に、完全にかぐや姫を幻視してしまっているのだ。かくして『竹取物語』の帝のイメージは『うつほ物語』朱雀帝に受け継がれていく。

さらにこの『竹取物語』の帝のイメージは、『うつほ物語』の大団円にも大きく絡み合っていく。『楼の上・下』巻、俊蔭女は孫のいぬ宮に秘琴を伝授する。その場には、讓位した帝、朱雀院が多くの大臣らとともに列席しているのだが、また朱雀院は自らの力を發揮して、上達部に諮り、事をなすという「儀式」を行っているのである。

朱雀院、「今宵の尚侍の祿に、いかなることをせむ。いぬ宮に、いと上手に、同

じごと弾き給ふにつけても、いかでかめづらしかなることをせむ」と思す。万両の黄金も悪く思して、嵯峨の院に、「世を去り侍りて、今宵の祿をこそ、え、心のままに侍るまじけれ」と申し給へば（中略）「内大臣、右大将藤原朝臣それがし。尚侍、正二位に加階し給ふべし。中宮・春宮・大臣家の大饗になすらへて、尚侍の家に大饗許されむ（中略）」と書かせ給ひて、左、右大臣、右大将のをば書かせ給はで、官・位をこれに書きつけて、近う召して賜ふに、二、三人は書き出でて奉り給ふ。(九三七〜九三八頁)

朱雀院は天皇の位を降りてしまったが、何とかして「めづらしかなること」をしようと躍起になる。父嵯峨院を頼り、嵯峨院に言わせてはいるが、提案したのは朱雀である。朱雀院はまたも、上達部に諮りつつも自らの意見を通す、権力行使の「儀式」を執り行ったのであった。その「儀式」の結果、俊蔭の鎮魂と俊蔭一族の栄華が招来され、この物語は不動の大団円に向かつていく。

なお、そのような一族厚遇の返礼品として、朱雀が「こここそ、『今宵の物には、不死薬をmogな』と思へ。さても、これは、いと見まほしく思ふものになむ」(九四二頁)と「不死薬」を求めているのは見逃せない。冗談めかしてとは言え、朱雀は『竹取物語』の帝を生きようとして、不死薬を「かぐや姫」(俊蔭女)に求めているのだ。『竹取物語』の帝の『うつほ物語』への影響は、既に松野彩も指摘する(10)ところではあるが、特に帝が上達部に諮るという「儀式」を行っている点、朱雀帝への影響は相当に深いと言っていいたいだろう。『竹取物語』の帝を先蹤として、『うつほ物語』の朱雀帝は俊蔭女を恋慕する。そしてその『竹取物語』の帝的な朱雀帝のありようから、この物語の大団円というものは引き出されてくるのであった。

おわりに

ここまで『竹取物語』の帝の描かれ方、そして、その文学史的な立ち位置について考察してきた。その中でまず見えてきたのは、基本的に『竹取物語』の帝は「強い」帝であること、そして雄略的な行動する帝として描かれていたことであった。

焼き方を教えていることは、帝が祭祀者としての役割をも取り戻したものと思われる興味深い。帝はかぐや姫という仙女を見送る祭儀を勅使に代行させたのである。帝は「まつりごと」全般に対して広く、その力を再発揮しはじめている。言い換えれば、雄略の影も背負っていた一時期の「強さ」を取り戻そうとするのである。『竹取物語』は恋した女を失った後、再生しようとする帝を描いているといえよう。

帝における「喪失と再生」。ちょうど『源氏物語』がそこを始発としていたこの意味は大きい。『源氏物語』は、帝が再生する際の原動力として光源氏の成長を語っていく。帝の激しい恋とその喪失がまず描かれ、その後で帝の再生のために必要なの（光源氏）が焦点化されていくという物語の語り口は、まさに『竹取物語』から学んだ趣向ではなかったか。『桐壺』巻前半部の構造は、まさしく『竹取物語』を母体として作られていると思しい。

『竹取物語』は末尾、「その煙、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、いひ伝へたる」（七七頁）と、再生のために必要な「煙」に焦点を当てている。帝がなぜ手紙と葉を焼いたのかについては諸説ある（9）が、本論では自身と自身の権力の復活のために帝はそれらを焼いて「煙」としなければならなかった、そういうふうにつまえておきたい。かぐや姫との思い出の品を煙とすることで帝は復活を図る。そして、そうした「帝の喪失と復活」の構図が後の物語に受け継がれていくのだ。

また、話は多少前後するが、帝が自身の「喪失と復活」の現場に上達部など百官を立ち会わせているという点も、「帝」ならではの再生の在り方を垣間見せて興味深い。

大臣、上達部を召して、「いずれの山か天に近き」と問はせたまふに……

（七六頁）

天に近い山を聞くだけでは、その道の博士を一人召せばよいだけの話である。あえて「大臣、上達部を召し」たのは、彼ら百官を立ち会わせるというある種の「儀式」を、帝は自分の力の復活のために必要としたということではないだろうか。そして、この「儀式」は『うつほ物語』にも受け継がれていく。

『うつほ物語』「内侍のかみ」巻において、帝（朱雀帝）は美しい女（俊蔭女）に恋

をする。彼女は自分の息子仲忠に「いづくなりし天女ぞ」（四二〇頁）と思わせる「天女」であった。帝は俊蔭女を宮中に呼び寄せ、彼女の姿と、彼女が弾く琴の音色に夢中になる。

ただ、同時に帝は、自らのその想いが実らぬものであることを知っている。俊蔭女には藤原兼雅という夫がいるからである。

「境越えけむ国母に、関入らぬ国王をこそ思しも落とさざらめ」。北の方の、「いかなる関守りかは許し聞こえさせざらむ」。上、「近き衛りの陣こそは、固く居ためれ」などのたまふ。

（四三〇頁）

帝は「関入らぬ国王」に自分を重ねている。この「国王」は一義的には、「故婦行」という詩の「唐土の帝」のことだが、あるいはかぐや姫に恋慕しつつも天界という「関」に入れなかった『竹取物語』の帝も、想起できるかもしれない。

いづれにせよ、帝は「関入らぬ国王」である自分に同情を求めていく。しかし、一方の俊蔭女はあくまで「北の方」であった。「どんな関守でも帝ならお許しになりましよう」と帝を慰めてはいるが、それが単に言葉の慰めにすぎないことは帝が一番よく分かっている。帝は「近衛大将（俊蔭女の夫、大将兼雅のこと）が固く守っているようだ」と、卑屈な態度を崩さない。俊蔭女はかぐや姫ではないのだからあるいは無理に迫れば想いを遂げることもできたはずであるが、そういうことはしない。手に入られないということ、むしろ積極的に受け入れていくのである。

そして、帝は琴の演奏の褒美（御祿）として俊蔭女を尚侍にしようと思いつく。

御前なる目給の簡に、尚侍になすよし書かせ給ひて、それが上に、かくなむ。

「目の前の枝より出づる風の音は離れにし物も思ほゆるかな

これがあはれなればなむ」と書きつけさせ給ひて、上達部たちの御中に、「人々、これに名して下されよ」とて賜ひつ。左のおとど、見給ひて、「いとおぼつかなし。誰ならむ」と思せど、御手づからのことなれば、名し給ふ。

（四三〇頁）

てつかはす。

(六二―六三頁)

帝は魂を置いていくような気持ちで宮中に帰っていった。言うなれば、かぐや姫に魂を抜かれた格好である。そんな帝は宮中に帰っても、ほかの女など目に入らない。とはいえ、他の后や女官たちは「人にもあらず」と思ったとまであるから、穏やかではない。むしろ、急に光だけの存在に身を変えるかぐや姫のほうが「人」ではないはずだが、そうした道理はもはやこの帝には通じないのだ。帝にとつて実際の人間(后たち)は「人」ではなく、(エキゾチックな仙女の)かぐや姫のほうが「人」なのだというアイロニカルな表現は、帝の屈折を描いて見事の一言である。例えばこうした帝の姿に、天武朝における中国幻想文学の興隆のようなものが比喩的に描き出されているとも考えられようか。ともあれ帝は「独り住み」を選択する。后たちのところに渡ることもなく、ただかぐや姫に手紙を書くことに夜を費やしたのであった。

帝という存在が公的なものである以上、これは重大な意味を持つ。「皇統の危機」である。この帝にすでに男子がいるのかどうか、そこまで物語は語っていないが、もしいなかったとすれば、このまま皇統が途絶えてしまう可能性があるのだ。この帝は后と子どもを儲けるという彼の「職務」をすっかり放棄してしまっている。その意味では、かぐや姫は「傾国の美女」であった。

なお、このような「傾国の美女」と「美女に溺れて職務を放棄する」帝という構図は、のちの『源氏物語』に受け継がれていく。桐壺更衣と桐壺帝がそれである。桐壺帝は、桐壺更衣を溺愛し、更衣と離れ離れであつてもほかの后のところに行くことはない。

もの心細げに里がちなるを、いよいよあかずあはれなるものと思ほして、人の譏りをもえ憚らせたまはず、世の例にもなりぬべき御もてなしなり。上達部、上人などもあいに目をもめつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。(一七頁)

じかに会えない切なさ、言い換えればある種の欲求不満が、帝をしてさらに女に執着させていく。これはそのまま『竹取物語』に由来する構図と言つてよい。会えないならほかの女と「職務」に励もうとは、彼ら帝は決して思えないのである。欲求が満

たされないという一種マゾヒスティックともいえる「敗北の喜び」に、彼ら帝は十二分に浸っているように見える。

もちろん、桐壺帝にはすでに第一皇子(のちの朱雀帝)がおり、直接「皇統の危機」が迫っているわけではない。しかし、「職務」を放棄した帝に対する、人々の不満が描かれており、その点ではむしろ『竹取物語』が描かなかつた問題に一步踏み込んだものといえることができるだろう。ここではこれ以上詳述しないが、『源氏物語』は『竹取物語』の設計した構図を用いながら、そこには描かれなかつた帝への怨嗟の声を顕在化することで、摂関政治体制が抱える問題、帝という男の「思い」と「職務」の問題に焦点を当てたのであった。

そう考えていくと『竹取物語』の帝は、いわばもう一人の桐壺帝なのであり、まさに「世の例」といふべき帝なのであつたらう。『竹取物語』の帝を「例」とし、それに続くものとして『源氏物語』の桐壺帝が造型されているという構図がここから看取できよう。雄略的な天皇像を継承しつつも仙女を前にして天武的な敗北の喜びに浸る帝、そしてその姿が桐壺帝へと受け継がれていく。文学作品で言えば『古事記』『懷風藻』から『源氏物語』へという流れ。言い換えれば神話や漢詩世界から物語へという文学作品の流れの中に、帝という観点から『竹取物語』が右記の通り位置付けられるだろう。

三、受け継がれていく帝 ――神話を離れて物語の「祖」へ

かぐや姫の昇天によつて、帝は悲しみに暮れる。帝は結局かぐや姫を引き留めることはできなかったのだ。かぐや姫は最後まで帝のものになることはなく、天へと還つていった。帝の悲しみは深く、「いとあはれがらせたまひて、物もきこしめさず」(七六頁)と食欲不振に陥るほどであった。

しかし、注目したいのはすでに小嶋が指摘している通り、『竹取物語』の帝は悲しみに没入ばかりしているわけではない(8)ことである。帝は「御遊び」の禁止を布告する。さらに上達部を招集し、「いづれの山か天に近き」と諮問する。帝はかぐや姫を失つて、本来の主権者としての立場を取り戻したのである。

その際、帝が「峰にてすべきやう教へさせたまふ」(七七頁)と、勅使に葉と文の

せる活動的な帝である。

帝、にはかに日を定めて御狩にいでたまうて、かぐや姫の家に入りたまうて、見たまふに、光満ちてけうらにてあたる人あり。これならむと思ひて、逃げて入る袖をとらへたまへば、面をふたぎてさぶらへど、初めよくご覧じつれば、類なくめでたくおぼえさせたまひて、「ゆるさじとす」

(六一頁)

帝は早速、かぐや姫を見つけると「ゆるさじとす」とその袖をとらえる。雄略もこのようにして結局は袁倭比売を手中に収めたかと推測される、自信に満ちた振る舞いである。しかし、ここで『竹取物語』は『古事記』から大きく逸脱する。女は「きと影になりぬ」(六一頁)、つまり実体を消し、光だけの存在になったのである。まさにかぐや姫が仙女であることを証し立てる変身劇であった。帝は「はかなく口惜し」(六一頁)と思うものの、手出しできずその前に立ちすくむほかない。元の姿に戻ることを懇願する帝であった。

既に保立も『竹取物語』の帝「天武天皇」説の中で指摘しているが、この帝像には天武天皇が吉野で仙女を幻視したという、『懷風藻』所載の漢詩が関係しているのではないか。

在昔釣魚士 方今留鳳公 彈琴与仙戲 投江将神通
 柘歌泛寒渚 霞景飄秋風 誰謂姑射嶺 駐蹕望仙宮

(『懷風藻』一〇二番)

この詩は仙女と戯れた「公」、天武を称賛する調子で描かれている。しかし結局、その「公」こと天武は仙女と契り、我が物にすることはできない。仙女とは「琴」で戯れるのが精いっぱいなのだ。例えば羽衣を隠して仙女を我が物にする「羽衣伝説」の男に比して、この「公」にはずいぶん「仙」に対する畏敬の念があるようである。仙女を手でできず、それでも女を諦めきれない『竹取物語』の帝と重なる部分があるだろう。

なお、こうした話型の背景にあるのは、中国由来の神仙譚ではないだろうか。『漢武帝内伝』、『遊仙窟』といった幻想的な文学が、天武朝のこの時期までに大量に日本

に入ってきていた。それらの幻想文学はその特徴として、例えば月の女神・西王母のように、美しいだけでなく神聖で強い女を描いている。つまり、『懷風藻』の「公」はそうした中国的な神聖で強い仙女の前にひれ伏したのである。さらに「琴」というのが中国由来の、中国を匂わす楽器であることを考えれば、やはり敗北する帝の前にいるのは中国風の美しくも神聖な仙女しか考えられないのではないか。

その美しく神聖な仙女の前に、『竹取物語』の帝も敗北を喫する。「元の御かたちとなりたまひぬ。それを見てだに帰らなむ」(六二頁)と、かぐや姫に敬語(「御かたち」)を使つて懇願する帝には、前項で見た『古事記』の雄略天皇のような威勢は全くない。あるいはここに雄略的な神話時代の天皇にあこがれ、『古事記』『日本書紀』の編纂を命じ、中国にも負けない「国家」を志向しながらも志半ばで斃れ、数代でその血統を行き詰らしてしまった(天武系の天皇は称徳が最後であり、それ以後天智系に取って代わられている)天武天皇の悲哀が描かれていると言つたら、深読みにすぎるだろうか。いずれにせよ、ここで帝は『古事記』とは裏腹に女の前に手をこまねき、我が物とすることはできない。むしろ屈服し、女に縋り付くような態度さえ見せるのである。当初、雄略を思わせる行動的な帝として登場しただけに、その落差は目を見張るものがある。中国幻想文学による影響の甚だしさがここからは垣間見れるかもしれない。その意味でかぐや姫は「月」と「中国」、二重にエキゾチックな魅力をもたえた女なのであった。

エキゾチックな仙女を前にして、『竹取物語』の帝の「敗北」はその場限りのものにとどまらない。帝は手にできなかったかぐや姫に執着を続ける。

帝、かぐや姫をとどめて帰したまはむことを、あかず口惜しく思しけれど、魂をとどめたる心地してなむ、帰らせたまひける。(中略)御心は、さらに立ち帰るべくも思されざりけれど、さりとて、夜を明かしたまふべきにあらねば、帰らせたまひぬ。つねに仕うまつる人を見たまふに、かぐや姫のかたはらに寄るべくだにあらざりけり。異人よりはけうらなりと思しける人も、かれに思し合すれば、人にもあらず。かぐや姫のみ御心にかかりて、ただ独り住みしたまふ。よしなく御方々にも渡りたまはず。かぐや姫の御もとにぞ、御文を書きてかよはさせたまふ。御返り、さすがに憎からず聞えかはしたまひて、おもしろく、木草につけても御歌をよみ

また天皇、長谷の百枝櫓の下にましまして、豊の樂きこしめしし時に、伊勢の国の三重の姝、大御盞を指挙げて献りき。ここにその百枝櫓の葉落ちて、大御盞に浮びき。その姝、落葉の御盞に浮べるを知らずて、なほ大御酒献りけるに、天皇、その盞に浮べる葉を看行はして、その姝を打ち伏せ、刀をその頸に差し充てて、斬らむとしたまふ時に、その姝、天皇に白して曰さく、「吾が身をな殺したまひそ。白すべき事あり」とまをして、すなはち歌ひて曰ひしく、(中略) かれこの歌を献りしかば、その罪を赦したまひき。

(二八二―二八三頁)

ある采女(地方豪族の娘)が、天皇の杯に落葉が浮いているのを知らずに酒を継ぎ足したところ、帝は怒ってこの女を斬ろうとした。この逸話では、采女が命乞いをして歌を詠んだのでかろうじて許されが、中には歌を詠めずに斬られてしまった女もいたことだろう。豪族の娘として天皇に仕えるということは、ある種常に死と隣り合わせであったことがうかがえるエピソードである。

今、雄略天皇のエピソードを四つ挙げたが、これを踏まえて『竹取物語』の帝登場場面を検討すると、特に後半の三つめ、四つめのエピソードは相当程度『竹取物語』と類似していることが見えてくる。

当初、帝の命を受けて竹取翁の家に派遣された内侍、中臣のふさは帝の威を借りて強権的に迫るのであった。

「かならず見たてまつりて参れと、仰せごとありつるものを。見たてまつらではいかでか帰り参らむ。国王の仰せごとを、まさに世にすみたまはむ人の、うけたまはりたまはでありなむや。いはれぬこと、なしたまひそ」と、言葉はづかしういひければ、これを聞きて、まして、かぐや姫聞くべくもあらず。「国王の仰せごとをそむかば、はや、殺したまひてよかし」といふ。

(五八頁)

「国王の仰せごと」の持つ意味の大きさは、これまで挙げてきた『古事記』の雄略天皇逸話の数々を読めば、おのずと理解されるだろう。帝に声をかけられれば、八十年でもその召しを待つのが、地元の女の責務であった。『竹取物語』の舞台が平安京(京

都市)でもなく平城京(奈良市)でもなく、奈良よりさらに南に下った大和国であることはここに大きく響いてくる(6)。先のエピソードで雄略天皇が女に声をかけたのは全て大和国内のことである。つまり雄略は(地盤を固めるためか)自らのホームタウンともいえる土地の女ばかりを「狩る」かのごとく行幸しては手を出していたのだったが、その影を色濃く持つ『竹取』の帝からの命令も、かぐや姫が「大和の女」である以上は本来拒めないものであるはずなのである。

となれば、かぐや姫の「はや殺したまひてよかし」という叫びは、全く大げさなものではなく、拒めないものを拒もうとする悲痛な女のそれとして理解するべきであろう。帝とばかり出会い、逃げ隠れたが結局捕まってしまった春日の袁仔比売は、「五百箇の金鉏」で捕まる直前、そうした叫びを漏らしたかもしれない。あるいはその後、雄略の妾の一人となっていることを鑑みれば、悲鳴を漏らしながら、やはり生への希求を捨てきれず、采女のように「吾が身をな殺したまひそ。白すべき事あり」と命乞いをしたかもしれない。天皇の意に染まぬ行いをすれば殺される。事実そういうケースがあったことを、采女のエピソードは如実に伝えているのだ。命が惜しければ、帝の感心するような歌を詠んで気持ちを和めるしかない。「はや殺したまひてよかし」というかぐや姫の悲鳴は、そうした女たちの先例を抜きにして理解することはできない(7)。(「史書」とされてきた)書籍に基づく「強い帝」のリアリティが『竹取物語』には反映されているのであった。

『竹取物語』の帝は、のちの展開になるが兵士を二千人動員でき、かつ誰に気兼ねすることもなく叙爵を行うことができる「強い帝」であった。雄略天皇の影を背負つてもいた。まずはそうした「強い帝」をかぐや姫は拒んだのだということ、その行為がまさに命がけであったのだということを、『竹取物語』に先行する『古事記』の逸話を通して確認しておきたい。

二、敗北し「職務」を放棄する帝――天武天皇、桐壺帝との関連

帝は内侍を遣わし、さらに翁を呼び出して命じたにもかかわらず、かぐや姫を召すことは不調に終わる。いよいよ、帝は自ら出向くことになる。まさに雄略を彷彿とさ

しかし、『竹取物語』の帝はそれを当たり前のようにやってのける。ここからは平安朝の帝というよりもむしろ、それより前の帝の像が透けて見えるように思われる。その点で、保良が『竹取物語』の「ミカド」帝は天武天皇をモデルとしている（4）と指摘するのに賛同するが、差し当たって本項では前代の帝との関連を考えてみたい。例えば『古事記』に描かれる雄略天皇（5）などは、まさにそうした「出歩く帝」であった。出歩いてはその地方の女と交渉を持つというエピソードが『古事記』に繰り返して語られているのだ。

例えば、以下のようなエピソードである。

天皇吉野の宮に幸行でましし時、吉野川の浜に、童女あり、それ形姿美麗かりき。かれこの童女と婚して、宮に還りましき。後に更に吉野に幸行でましし時に、その童女の遇ひし所に留まりまして、其処に大御呉床を立てて、その御呉床にましまして、御琴を弾かして、その嬢子に舞はしめたまひき。ここにその嬢子の好く舞へるに因りて、御歌よみたまひき。

（二七八頁）

雄略天皇が、吉野行幸の際に土地の娘と「婚し」という逸話である。「婚」と言えば聞こえはいいが、一夜の伽として無聊の慰めに召したと言った方が適切であろう。天皇は宮中に呼び寄せるでもなく、無聊を慰めるなり女を置いて「宮に還」っていくのだ。そして、気まぐれに再訪しては「嬢子に舞はしめ」て楽しんだとある。古代王朝の天皇としては当然の姿と言えるのかもしれないが、女の側からすればどうだっただろうか。いや、この娘はまだ召されて「婚し」ただけ恵まれていたと言えるかもしれない。この吉野の女の直前に置かれたエピソードでは、女が天皇に声をかけられたがために一生を棒に振った話がある。

また一時天皇遊行でまして、美和河に到ります時に、河の辺に衣洗ふ童女あり。それ容姿いと麗かりき。天皇その童女に、「汝は誰が子ぞ」と問はしければ、答へて白さく「おのが名は引田部の赤猪子とまをす」と白しき。ここに詔らしめたまひしくは「汝、嫁がずてあれ。今喚さむぞ」とのりたまひて、宮に還りましつ。

かれその赤猪子、天皇の命を仰ぎ待ちて、既に八十歳を経たり。（中略）然れども天皇、先に命りたまひし事をば、既に忘れて、その赤猪子に問ひてのりたまはく、「汝は誰しの老女ぞ。何とかもあ来つる」

（二七六～二七七頁）

遊行の際、美和河の辺りを通りかかった天皇は、洗濯をしていた若い女に声をかける。「すぐに宮中に呼ぶから」と約束したまま、呼び出すことなく八十年が経った。天皇は完全に自分の発言を忘れていたのである。女と謁見するに及んで、天皇は当時を思い出し「徒に盛の年を過ぐししこと、これいと愛悲し」（二七七頁）と同情はするものの、彼女がひどく老いていたため「え成婚せず」（二七七頁）とある。成婚（しないではなく）できなかったというのだが、男心を描いて冷酷かつ残酷な表現だろう。結局天皇は「その老女に縁多に給ひて、返し遣りたまひき」（二七八頁）と、ごまかすように縁を与えて追い返すのであった。

天皇に声を掛けられまいと、逃げ出す女が出るのも当然と言えば当然であった。

また天皇、丸邇の佐都紀の臣が女、袁存比売を婚ひに、春日に幸行でましし時、媛女、道に逢ひて、すなはち幸行を見て、岡辺に逃げ隠りき。かれ御歌よみしたまへる、その御歌、

嬢子の い隠る岡を

金鉏も 五百箇もがも

鉏き撥ぬるもの。

（二八一頁）

道でたまたま天皇の行幸に接した袁存比売は、自分が狙われていることを瞬時に悟って岡のほうに逃げていく。結婚拒否の女の原型と言えそうだが、そんな女に対して天皇は歌を詠む。「あの子が隠れている岡を鉏き通して見つけ出したい」というのである。どこことなく余裕を感じさせる歌の詠みぶりで、実際、最後には彼女を手中に収めている。そのような絶対権力を持った天皇は、時に女の命を奪おうとすることもあったと記事は語る。

はじめに

王朝物語文学史において、「帝」とはどういった存在かということを考えようとしている。平安、鎌倉、室町時代と何百年もの間、宮中では多くの物語が作られ、読まれてきた。その多くの物語に必ずと言っていいほど登場するのが「帝（御門・みかど）」と呼ばれる人物である。脇役といった描かれ方にとどまっている物語も少なくないが、それでも至尊の存在として一定の存在感を持っている場合が多い。時に主人公のライバルや障害として立ちふさがり、物語の方向性に道筋をつけている帝というものも一人や二人ではないように思われる。

果たして彼ら「帝」と呼ばれる人物は、具体的にどのような物語に描かれ、またどのような役割を担っているのか、物語文学史を貫いて考察していくことで何か新たに见えてくる地平があるのではないだろうか。

もちろん、「帝」はそれぞれの物語にそれぞれ別の人格を持って登場する。そこには明確なつながりなどないのかもしれない。「帝」という所詮は多く脇役に過ぎない人物にとらわれてしまうことで、それぞれの物語の持つメッセージ性を見逃してしまいう可能性もゼロとは言えない。

しかし、やはり物語文学が現存最古の物語『竹取物語』から鎌倉、室町期の物語に至るまで「帝」を無視できない以上は、私たちも「帝」を無視してはまずいのではないか。

今回はそういった問題意識に基づき、まずは『竹取物語』の「帝」から、その物語との関係性を見ていきたいと思います。「帝」の有り様が、『竹取物語』にどのような影響を与えているのか。また『竹取物語』が「物語の祖」である以上は、こうした『竹取物語』の有り様、または『竹取物語』の「帝」の有り様が後の物語に大きく影響を与えたはずである。そうした後の物語へ与えた影響にも目を配りながら、『竹取物語』とそこに描かれた「帝」を読み直してみたい。

『竹取物語』の帝については、すでに文学の側から小嶋菜温子（1）が、歴史学の側からは保立道久（2）がそれぞれ詳細に研究を進めている。本論では主にこの二人の研究に導かれつつ、物語文学史において、どのように「帝」が描かれていくか、その始発を見ていきたいと思います。

なお本文は『竹取物語』、『源氏物語』はそれぞれ『新編日本古典文学全集』（一九九四、小学館）に、『うつほ物語』は『うつほ物語 全』（一九九五、おうふう）に、『古事記』は『新訂 古事記』（一九七七、角川書店）に拠った。

一、女を求めて出歩く帝 ――『古事記』との関連

まずは初めて帝が物語中に登場する場面の検討から始めたい。

最初に確認しておきたいのは、ここまできぐや姫の求婚拒否は、現実的な設定のなかでなされているということである。かぐや姫が提示した難題を、求婚者はクリアすることができなかった。それゆえ、かぐや姫は求婚を拒むということが繰り返されている。その展開、また求婚者たちの具体的なエピソードにも何ら現実社会を超えるものはない。むしろ、そこでは超現実的なものが否定されていると言ってもいいだろう。最も象徴的なのは、くらのもちの皇子のエピソードである。くらのもちの皇子は蓬萊の玉の枝を求められたが、蓬萊山になど行けるわけがないと考え、嘘の話と偽の玉の枝を創作する。結局彼は工匠らに報酬を払い忘れたために嘘を暴露されることになるが、そのエピソードにあるのはある種の冷静な現実認識、超現実の否定と言ってもよい。三浦佑之が述べるように「くらのもちの皇子の物語は、異界を否定する物語」（3）なのである。

同じことは阿部御主人のエピソードにも言い得る。阿部御主人はくらのもちの皇子とは少し異なり、本人は自らが持ってきた品物（火鼠の皮衣）は本物（火に入れても燃えない超現実的な宝物）だと信じているようだが、結局それは単なる皮衣でしかなかった。現実には抗うことなく、火に投げられた皮衣はあっけなく燃えてしまうのである。

そのようにかぐや姫は、いわば難題を提示することによってリアリティに五人の求婚者たちの求婚を拒み切った。そして、今度はかぐや姫の「世に似ずめでたきこと」（五六頁）を聞き付けた帝が内侍を遣わし、その後、自らやってくるのである。

――出歩く帝。平安の物語としては異例の姿と言っていいたいだろう。『うつほ物語』でも物語の大団円に当たる秘琴の演奏会に主要人物中、帝だけは参列できていない（なお、朱雀、嵯峨の両院は参列している）し、『源氏物語』においても、桐壺帝は最愛の更衣を死出の旅に送り出して宮中にとどまらざるを得ないのである。

『竹取物語』における帝 —— 物語文学史における帝の始発

伊 勢 光*

Mikado in the Taketori Monogatari ——The beginning of the emperor in the history of narrative literature

Hikaru ISE

In this paper, I tried to understand how Mikado (= the emperor) was modeled in "Taketori Monogatari" and how Mikado's molding was inherited by posterity.

First, we focused on the fact that Mikado of "Taketori Monogatari" is the "walking Mikado". Mikado of "Taketori Monogatari" was a strong emperor, as can be seen from the fact that he was mobilizing 2,000 soldiers. The attitude of going out to get a woman was also full of confidence, and in that respect, there was also a part that was connected to the Mikado in Kojiki. In Kaguya Hime's protesting words, "Haya koroshi tamahi Teyokashi (= Please kill me soon)", for example, the shadow of a woman who has been oppressed by the emperor, such as Yuryaku, appears and disappears. However, Mikado is defeated before the transformation of the princess, Kaguya Hime. Not only is he defeated, but he also shows the maiden a clinging and even obsessive attitude. Here, for example, the shadow of the Tenmu Emperor worshipping a maiden depicted in "Kaifuso" or the atmosphere of the Tenmu dynasty drunk by a Chinese fantasy novel whose main character is a maiden is strongly projected. In addition, Mikado feels embraced by another woman and chooses to live alone. The idea of such Mikado was later handed down to the Tale of the Genji Monogatari. I pointed out the flow from "kaifuso" to "Taketori Monogatari" and then "Genji Monogatari".

The process in which the emperor of "Taketori Monogatari" that was formed under the influence of "Kojiki" and "Kaifu Algae" later became the prototype of Suzaku Tei of "Utsuho Monogatari" and Kiribatsu Tei of "Genji Monogatari." Argued.

— 1 —

研究推進委員会

委員長 津 田 良 弘 (物 質 工 学 科)
委 員 田 中 嘉津彦 (機 械 工 学 科)
松 浦 徹 (電 気 電 子 工 学 科)
波 多 浩 昭 (電 子 情 報 工 学 科)
坂 元 知 里 (物 質 工 学 科)
奥 村 充 司 (環 境 都 市 工 学 科)
挽 野 真 一 (一 般 科 目 教 室)

福井工業高等専門学校 研究紀要 人文・社会科学 第54号

令和 3 年 1 月 30 日 印 刷

令和 3 年 1 月 30 日 発 行

編 集 兼
発 行 者

福 井 工 業 高 等 専 門 学 校

福 井 県 鯖 江 市 下 司 町
T E L (0778) 62-1111 (代)
F A X (0778) 62-2597

印 刷 所

(有)ワープロセンターHOPE

福井県越前市東千福町 21-4
T E L (0778) 24-1146
F A X (0778) 24-2339
